2027年3月期　第2四半期　決算説明資料

2026年11月13日 | 証券コード5381

マイポックス株式会社

イノベーションに磨きをかける。

イノベーションに磨きをかける。
最先端を研ぎ澄ます。
次の100年を切り開き、世界の常識を塗り替える。

日本には「つゆはらい」という言葉があります。
行列の先を行って障害を取り払うこと。
人々を先導すること。
転じて、何かを最初に行うこと。

お客様が進む未来の先に立ち塞がる課題を、先回りして取り除いておく。
世の中に横たわる課題に、まだ来ない誰かが躓かないように解決しておく。

100 年にわたり「塗る・切る・磨く」ソリューションを提供してきた
私たちの仕事は、お客様と社会の行く先に磨きをかけること。
そして皆さんと切磋琢磨しながら、
私たち自身の技術にも磨きをかけることに他なりません。

これからの 100 年も、
未来が、眩しく光輝くように
私たちは、強く優しく磨き続けます。

MiPOX

変わることを忘れない『100年ベンチャー』

当社は1925年にドイツ・レイボルト商館の子会社として創業し、輸入した顔料を販売する傍ら主に出版物に使われる色箔の製造を生業としておりました。1960年代後半よりこの色箔を製造する中で培った「塗る」技術、それを裁断する「切る」技術を基に、精密部品の製造工程事業に使用される研磨フィルムを開発し、「塗る・切る・磨く」の3つのコア技術を確立いたしました。

精密研磨材専業メーカーとして発展を経て、2000年初頭からはコア技術である『塗る』をサービスとして提供するエンジニアリングサービス（受託塗布）を開始いたしました。創業来の危機である2008～2010年を乗り越えたあとは、『磨く』をサービスとして提供するウエハープロセス（受託研磨）を立ち上げ、「塗る・切る・磨くで世界を変える」に取り組んでまいりました。 2016年には研磨布紙メーカーである日本研紙を仲間に迎え、製品事業のラインナップの拡充を進めました。

創業100年という節目を越え、次の100年に向けた新たな挑戦を始めています。事業を長く続けていくために、急速に変化するテクノロジや世の中の価値観を敏感にとらえながら、自らも変化に順応していくことが求められます。こうした時代のニーズに対応するため、私たちが培ってきたコア技術をさらに高めながら、新しい事業にも積極的にチャレンジし、世の中に必要とされる製品やサービスを通じて世界のお客様に選ばれるパートナーを目指してまいります。

創業100年で培った技術と信頼を礎に、「変わることを忘れない100年ベンチャー」として、次の100年に向けて挑戦を続けてまいります。

今後とも皆様のご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長　渡邉 淳



© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

01　会社概要

会社名	**マイポックス株式会社**
英文名	**Mipox Corporation**
創業	**大正14年（1925）年11月21日**
設立	**昭和16年（1941）年12月12日**
代表者	**代表取締役社長　渡邉　淳**
本店・本社	**〒322-0014　栃木県鹿沼市さつき町18**
株式市場名	**東京証券取引所 スタンダード**
証券コード	**5381**

【経営方針】

付加価値向上
エンジニアリング
アプローチによる
製品事業の付加価値向上



事業転換
受託事業から
エンジニアリング
サービス事業への転換

経営基盤の整備
早い変化と
多様性に対応できる
経営基盤の整備

マイポックス・
メタルワークス
（旧大久保鉄工所）

「塗る、切る、磨く」を極めた技術力

創業から続く箔の製造技術を応用することで「塗る」「切る」「磨く」技術をコアにした事業を展開した企業です。
コア技術を組み合わせ、お客様の成功のための付加価値を創造するための製品とサービスを提供します。



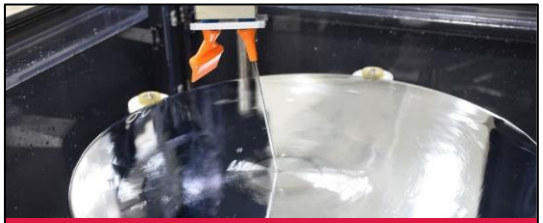
塗る Coating

PETフィルム、銅箔、織布、紙等の基材に、調合した樹脂等の塗料を均一に塗布。
自社製品である研磨材や反射材だけでなく、保有する複数の塗工機によって要望に合わせた機能性フィルムの製造も実現。



切る Slitting

「塗る」ことで出来た製品を希望のサイズに裁断（スリット）。高精密さが求められるハードディスク向け研磨フィルムの製造で培った技術によって、裁断が困難といわれている素材でも精度の高い切り口と巻き上げを実現し、高品質の製品を提供。

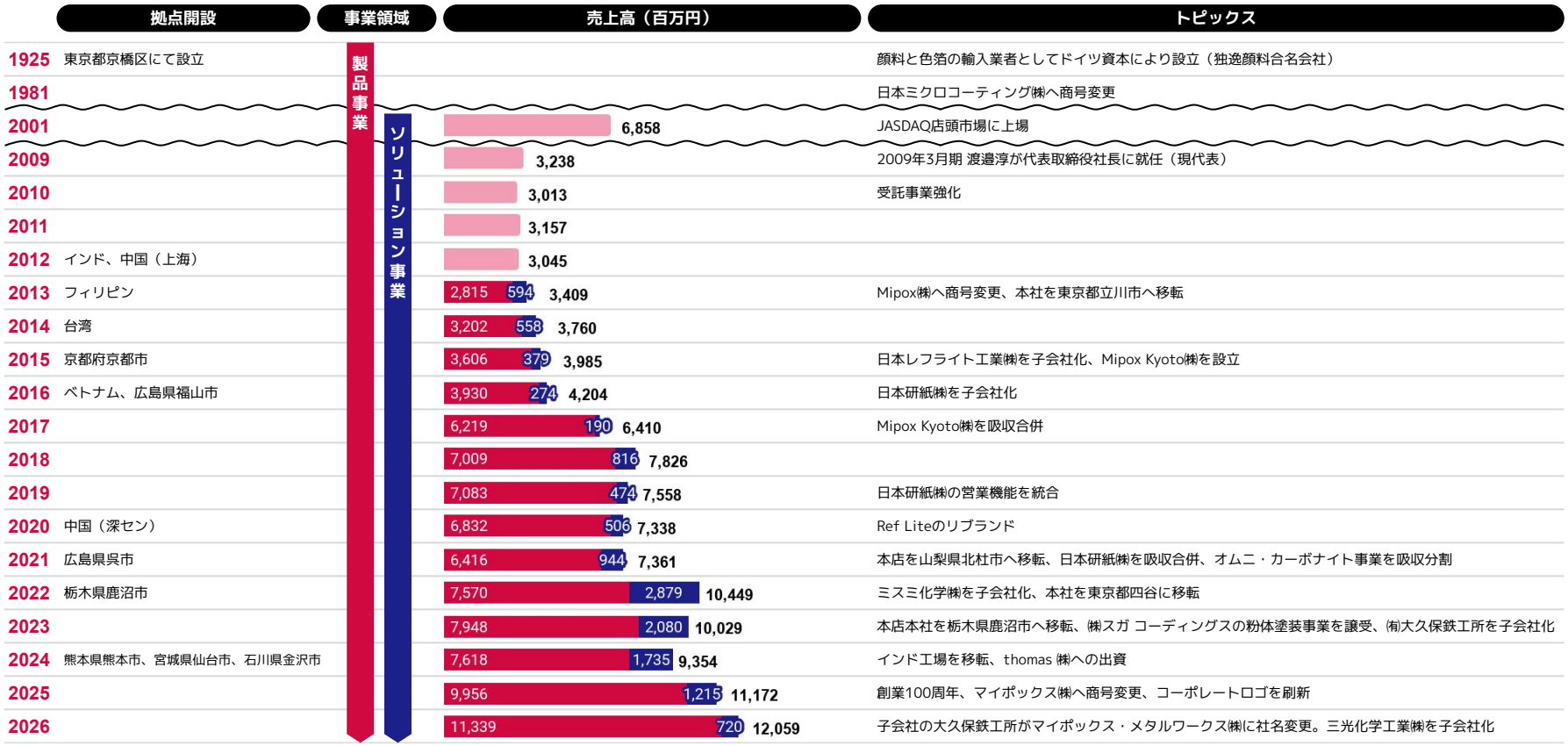


磨く Polishing

徹底的な顧客視点を持った製品開発のために自社の研磨材と独自の研磨装置で研磨プロセスの研究を積み重ねる。
先端デバイス分野で培った高精度研磨加工技術で次世代半導体ウェーハの研磨にも挑戦し、研磨市場に於けるプロフェッショナルを目指す。

© 2026 Mipox Corporation

01　沿革



© 2026 Mipox Corporation

01　セグメント変更

今後の成長戦略と事業ポートフォリオをより適切に開示するため、セグメント区分と名称を一部変更いたしました。

旧セグメント　2027年3月期第1四半期まで

	項目	内訳
製品事業	一般研磨関連製品	自動車関連
		鉄鋼関連
		その他
	ハイテク関連製品	HDD関連
		光ファイバー関連
		半導体関連
受託事業	受託塗布・スリット	
	受託研磨加工	一般研磨関連
		ハイテク関連

新セグメント　2027年3月期第2四半期以降

● ● 変更点

内訳	項目	
自動車関連	● 産業分野・電子部品関連	製品事業
● 住宅・建築・重工・産業資材		
● 電子部品・一般デバイス		
● 汎用資材・その他		
ハードディスク関連	● 先端デバイス関連	
光ファイバー関連		
半導体関連		
● 塗布・スリット関連		ソリューション事業
● 産業分野関連	● 研磨・接合関連	
● 先端デバイス関連		

※過年度の数値は、変更後のセグメント区分に基づき組み替えて表示しております。

© 2026 Mipox Corporation

01　セグメント別売上比率

製品事業

研磨材の製造・販売

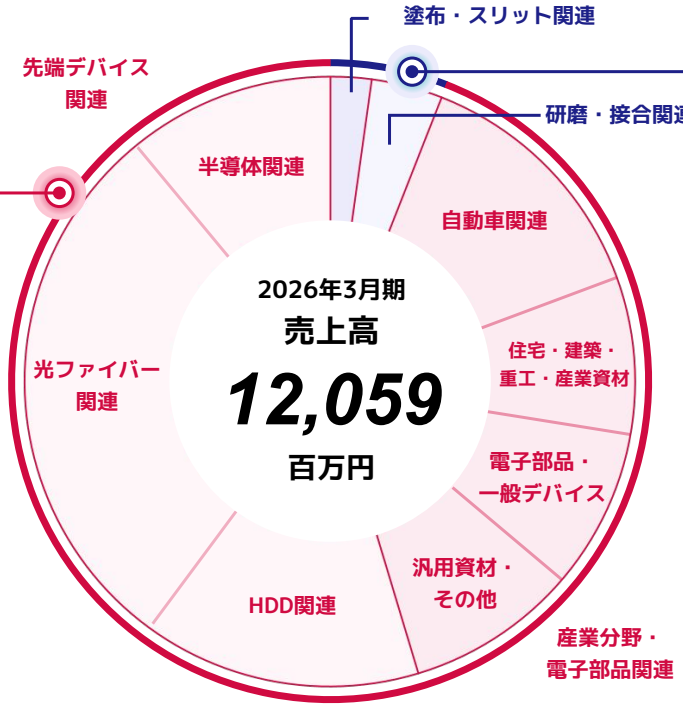
売上高構成比 **94%**

先端デバイス関連　55%

HDD関連、半導体、光ファイバー等で使用される研磨材の製造・販売

産業分野・電子部品関連　39%

自動車、鉄鋼関連等で使用される研磨材の製造・販売



国内外売上高比率（2026年3月期）



ソリューション事業

顧客から材料の支給を受け
当社グループが保有する設備で受託加工

売上高構成比 **6%**

塗布・スリット関連　2%

顧客からフィルムや塗料材等を預かり、当社設備を使用して加工製造

研磨・接合関連　4%

半導体用途を中心にウェーハ等の材料を預かり、当社の研磨材と設備を使用して研磨加工

© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

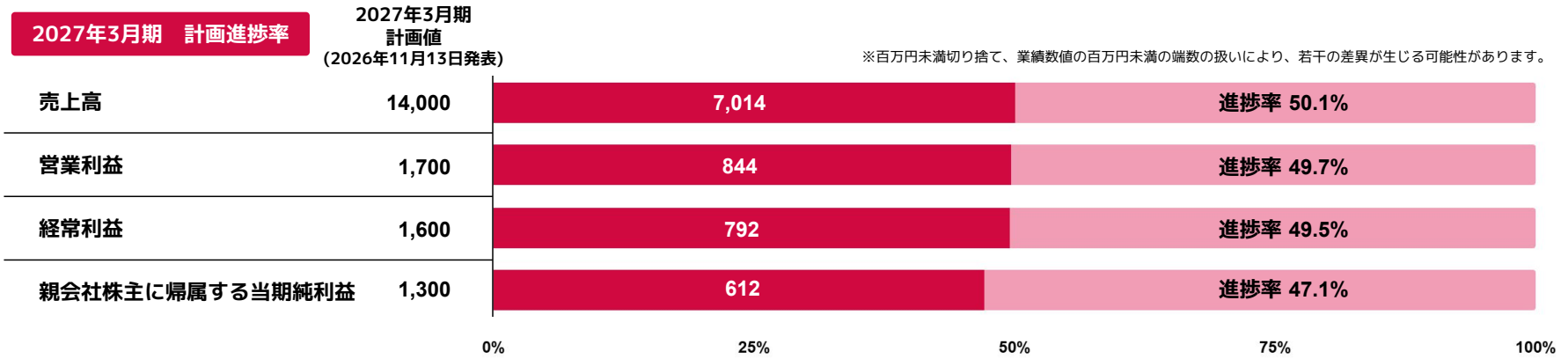
02　PLサマリー

製品事業の好調が牽引し、第2四半期累計売上高は過去最高を達成しました。売上高の拡大に伴い、各段階損益も堅調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

（単位：百万円）	2026/3期 2Q	2027/3期 2Q	前年同期比
売上高	**5,693**	**7,014**	**+23.2%**
売上総利益	**2,203**	**3,005**	**+36.4%**
販売費及び一般管理費	**1,967**	**2,161**	**+9.8%**
営業利益	**235**	**844**	**+258.4%**
為替差損益	**▲ 38**	**▲40**	**-**
経常利益	**194**	**792**	**+308.3%**
親会社株主に帰属する中間純利益	**265**	**612**	**+130.2%**

2027年3月期　計画進捗率

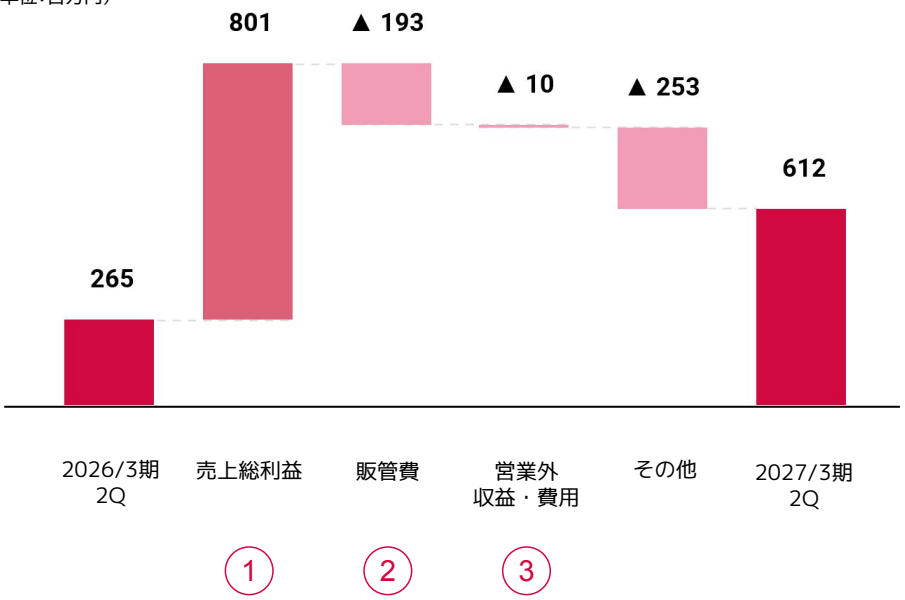
※百万円未満切り捨て、業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。



© 2026 Mipox Corporation

02　純利益増減要因

（単位:百万円）



※増減算出後、百万円未満切捨て

利益増減要因

① 売上高が前年同期比で増加したことにより売上総利益も増加しました。

② 前第2四半期累計期間に発生した一時的な輸送コストは減少したものの、ベースアップによる人件費の増加や開発投資等により全体的に販管費も増加しました。

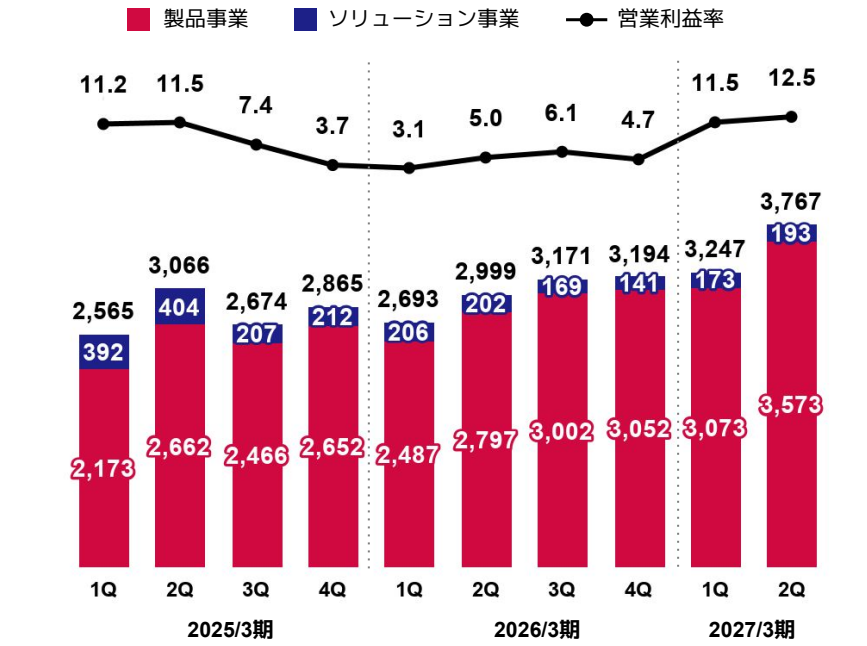
③ 負ののれん発生益による特別利益が当期は減少しました。

© 2026 Mipox Corporation

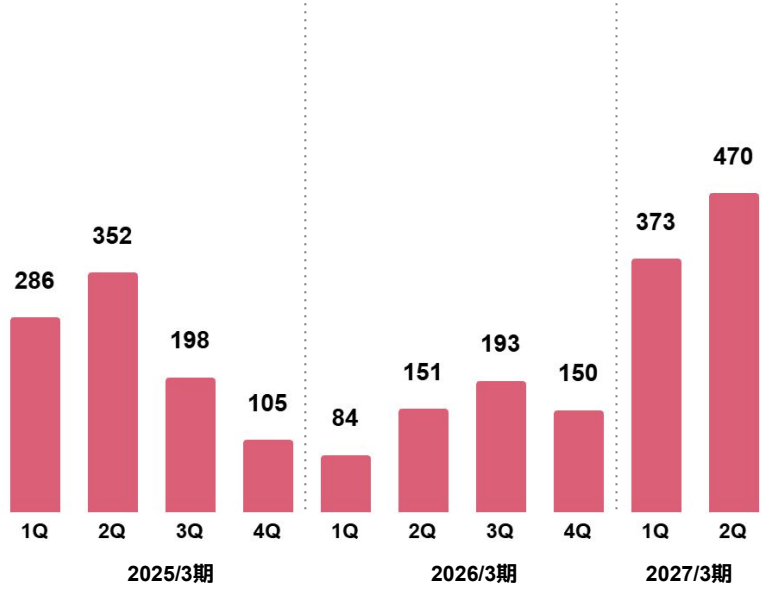
02　四半期業績推移（連結）

先端デバイス関連製品を中心とした製品事業の売上伸長に伴い、売上高・当第2四半期会計期間の営業利益も堅調な着地となりました。なお、前期まで期末に一括計上していた決算賞与については、当期より四半期ごとの引当処理へ変更しております。

売上高・営業利益率（単位：百万円・%）



営業利益（単位：百万円）



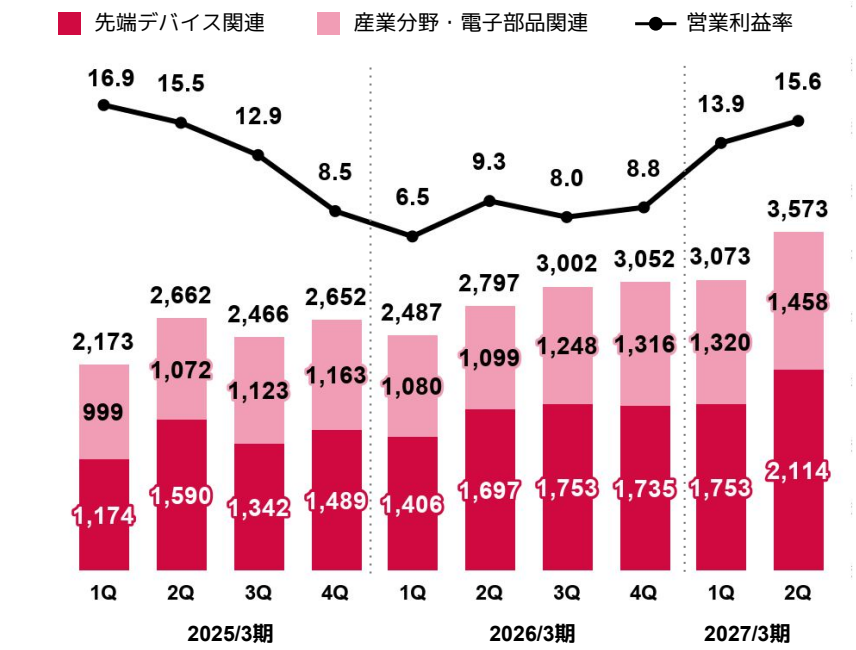
※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

© 2026 Mipox Corporation

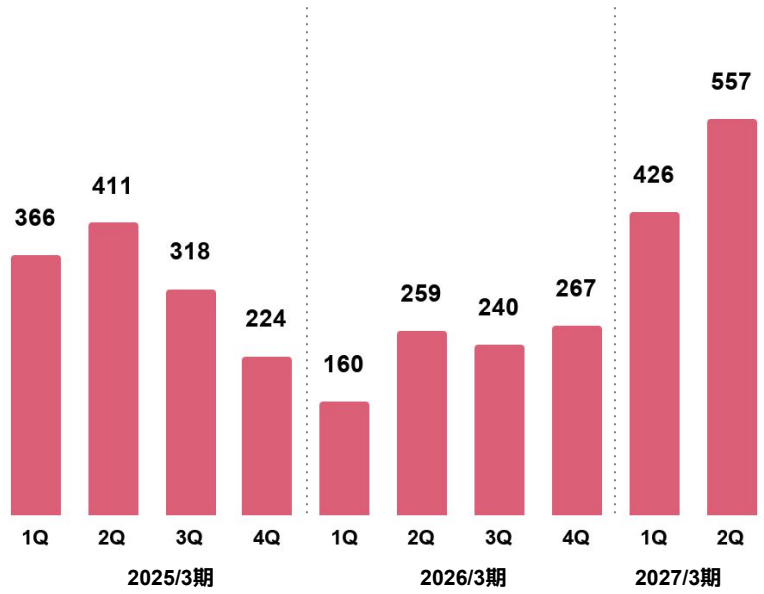
02　四半期業績推移（製品事業）

先端デバイス関連製品、産業分野・電子部品関連製品ともに売上は堅調に推移しました。セグメント利益は、販管費の増加やソリューション事業の落ち込みによる共通固定費の負担増があったものの、これらを上回る売上の増加により前年同期比で増益となりました。四半期ベースでも、先端デバイス関連製品の伸長や価格改定の影響により利益も上昇傾向で推移しております。

売上高・営業利益率（単位：百万円・%）



営業利益（単位：百万円）



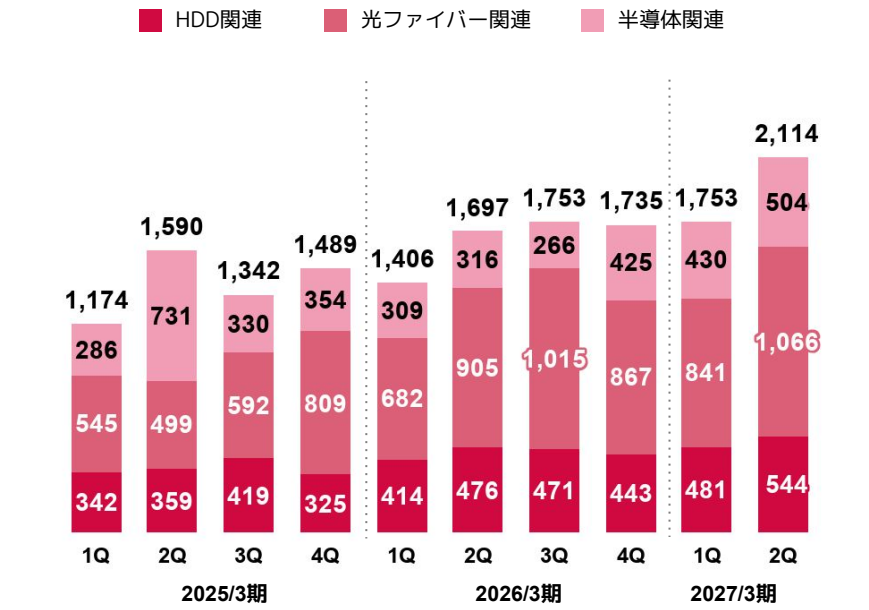
※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

© 2026 Mipox Corporation

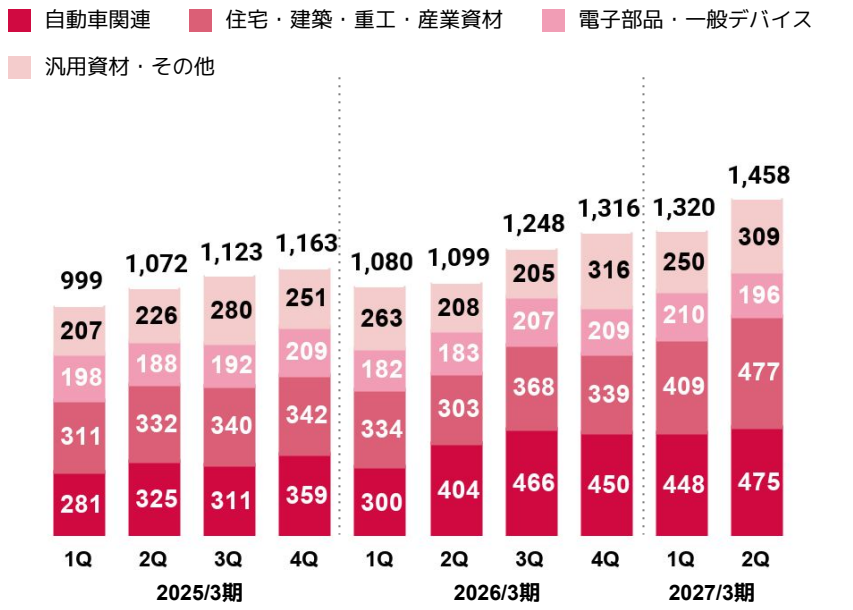
02　業績推移（製品事業内訳）

AI・データセンター投資によるデータネットワーク分野が好調で、先端デバイス関連製品の売上高は高水準で推移しています。光ファイバー関連については、データ通信量の急増やデータセンター建設に伴う需要拡大により、旺盛な需要環境が継続しています。 HDD関連も大容量ストレージ需要を背景に、半導体関連もAIインフラへの継続的な投資を背景に、売上は堅調に推移しています。産業分野・電子部品関連製品は、主要顧客向け出荷の増加、競合製品からの切替の進展、価格改定の浸透により、各用途の売上は安定的に推移しています。

先端デバイス関連（単位：百万円）



産業分野・電子部品関連（単位：百万円）



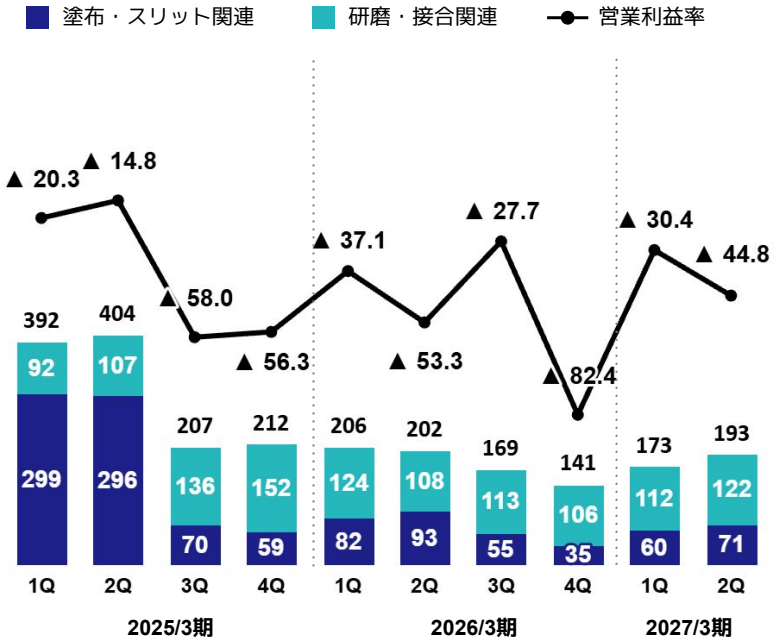
※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

© 2026 Mipox Corporation

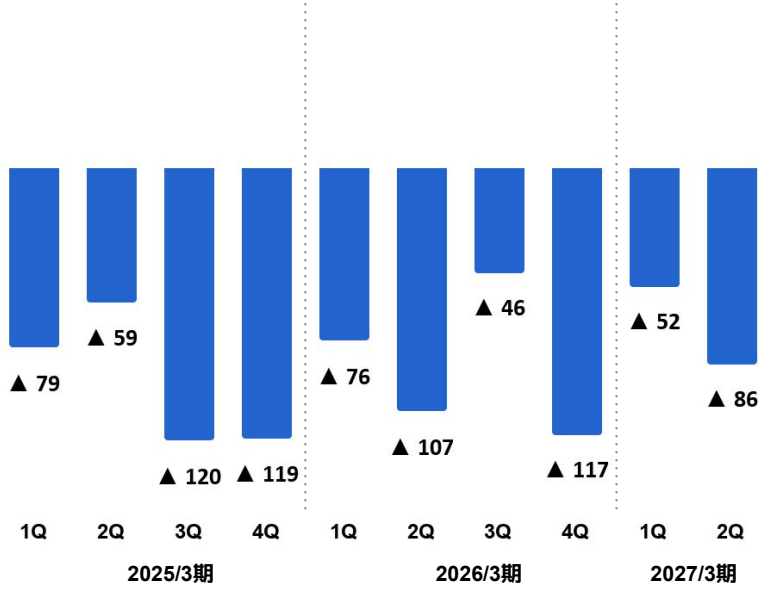
02　四半期業績推移（ソリューション事業）

売上高は、材料費の高騰や顧客動向の変化といった市場環境の影響で量産案件が減少しているものの、新規試作の獲得は増加し売上は微増となりました。また、人員や設備の製品事業への転用による固定費抑制に努めているものの、量産案件の減少に伴う共通固定費の負担増を補うには至らず、セグメント損失となりました。

売上高・営業利益率（単位：百万円・%）



営業利益（単位：百万円）



※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

© 2026 Mipox Corporation

02　BSサマリー

（単位：百万円）	2026/3期末	2027/3期 9月末	増減額	備考
流動資産合計	**10,388**	**11,520**	**+1,131**	
現金及び預金	**3,184**	**3,265**	**+80**	
売上債権※	**3,034**	**3,691**	**+656**	四半期売上の増加に伴う売上債権の増加
棚卸資産	**3,571**	**3,903**	**+332**	需要増加に伴う在庫の積み増しによる増加
その他	**597**	**660**	**+62**	
固定資産合計	**7,680**	**8,254**	**+574**	
有形固定資産	**6,840**	**7,142**	**+301**	工場に対する建物や機械投資への設備投資による増加
資産合計	**18,069**	**19,775**	**+1,705**	
流動負債合計	**6,803**	**7,972**	**+1,169**	
支払手形及び買掛金	**990**	**1,092**	**+102**	原材料の調達による仕入債務の増加
短期借入金（社債含む）	**4,701**	**5,532**	**+830**	売上高増加に伴う運転資金の調達による増加
その他	**1,111**	**1,329**	**+218**	未払法人税等及び設備未払金の増加
固定負債合計	**2,318**	**2,274**	**▲ 44**	
長期借入金（社債含む）	**1,874**	**1,689**	**▲ 184**	借入の返済による減少
負債合計	**9,122**	**10,246**	**+1,124**	
純資産合計	**8,946**	**9,528**	**+581**	四半期純利益による増加及び支払配当による減少
負債純資産合計	**18,069**	**19,775**	**+1,705**	

※売上債権は受取手形、売掛金、電子記録債権を合計し、棚卸資産は商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品を合計しております。

※増減算出後、百万円未満切捨て

© 2026 Mipox Corporation

02　トピックス

リリース日	該当四半期	タイトル	詳細
2026年5月25日	1Q	三光化学工業株式会社の株式取得（子会社化）に関するお知らせ	P19 別途資料
-	1Q	機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催	P20
-	2Q	生成AI関連（半導体・光通信）市場へのアプローチ	P21
-	2Q	社会貢献活動（地域・次世代育成）	P22

© 2026 Mipox Corporation

02　三光化学工業株式会社の株式取得（子会社化）に関するお知らせ（2026年5月25日）

当社は、三光化学工業株式会社の株式を取得し子会社化することとなりました。本子会社化により、原料調達から製造までの一貫体制を構築・強化し、拡大する市場需要に対応した生産能力の増強を図ってまいります。なお、本株式譲渡の手続きは完了し、2026年8月より当社グループの子会社として、新体制での営業を開始いたします。

MiPOX × 三光化学工業株式会社



三光化学工業は、高度な電着植毛技術を用いた「植毛フィルム」の製造において優れた技術力を有しており、当社の光ファイバー市場向け製品の研磨・製造プロセスにおける重要材料の安定供給を担う戦略的拠点として最適であると判断いたしました。

【企業概要】

企業名	三光化学工業株式会社
所在地	（本社） 〒501-0521 岐阜県揖斐郡大野町黒野1018番地
事業内容	電着植毛技術及び特殊コーティング技術を用いた機能性材料・シート（精密研磨・光学用部材等）の製造・販売、ならびにインテリア資材（壁紙等）の製造・販売
資本金	3,500万円
設立日	1952年6月

© 2026 Mipox Corporation

02　機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催（2026年6月4日実施）

現地開催とWeb配信を組み合わせたハイブリッド形式で決算説明会を開催し、
当社の事業内容や成長戦略について理解を深めていただくとともに、積極的な対話を行いました。

開催内容	2026年3月期 通期決算説明会
開催日	2026年6月4日
開催場所	丸の内オフィス（当社）
開催方法	ハイブリッド（会場＋オンライン）
登壇者	代表取締役：渡邉 淳 （写真左） 取締役：中川 健二 （写真右）
参加者	機関投資家・アナリスト



02　生成AI関連（半導体・光通信）市場へのアプローチ

当社は、世界最大級の半導体製造装置・材料・技術の国際展示会であるSEMICONをはじめ、生成AI市場の拡大に伴い需要が高まる関連製品・サービスの展示会に積極的に出展しております。こうした活動を通じて、成長市場における当社技術の認知度向上と新規顧客の開拓を推進いたします。



生成AI市場の拡大を背景に

関連展示会へ積極出展

半導体市場　光通信市場

時期	開催国	展示会名	展示内容
May	マレーシア	SEMICON Southeast Asia 2026	半導体製造に不可欠な当社製品（クリーニングシート・装置）・ソリューション
Jun	米国	Semiconductor Wafer Test Conference (SWTest 2026)	半導体向けクリーニングシートなど
Sep	台湾	SEMICON TAIWAN 2026	半導体ウェーハの精密研磨加工・接合サービスについて
Oct	米国	SEMICON West 2026	半導体製造に不可欠な当社製品（クリーニングシート・装置）・ソリューション
Oct	韓国	2026 Korea Electronics Show (KES2026)	研磨フィルム製品・ウェーハの精密研磨加工・接合サービスについて
May	中国	OVC EXPO 2026	光通信・光電子技術について
Sep	中国	第27回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2026）	光ファイバー及び光コネクター用途の研磨フィルムを中心とした製品

※KES2026、OVC EXPO 2026、CIOE 2026については、当社子会社及び代理店の出展。

© 2026 Mipox Corporation

02　社会貢献活動（地域・次世代育成）

当社は、コア技術「塗る・切る・磨く」の活用や教育支援を通して、「学び」や「体験」の場の提供を行っております。今後も事業活動を通じて地域と共に歩み、より豊かな社会の実現に貢献してまいります。



次世代育成

Mipox X Challenge Program

研磨剤・研磨フィルムのモノづくりで培った当社の技術と、株式会社リバネスが共同で始動した次世代人材育成プログラムです。本年度は、高校生・高専生が「究極の光るどろだんご」を作る製造マシンの開発に挑み、共創と試行錯誤を通じて探究・挑戦する力を育みます。



モノづくり体験

宝石研磨加工教室

本社所在地である栃木県主催の「とちぎ子どもの未来創造大学」に賛同し、小学生向けの研磨講座を実施しております。当社の研磨フィルムで宝石の原石を磨き、ストラップやネックレスに仕上げる体験を通じて、子どもたちにモノづくりの楽しさや学びの機会を提供しております。



地域貢献活動

公園美化活動

福山事業所（広島県福山市）の近隣地域の公園美化活動を行っております。研磨材メーカーとして培った専門知識と「塗る・切る・磨く」の技術を活かし、子どもから大人まで安全で快適に利用できる公園づくりに取り組んでおります。



地域貢献活動

子どもたちの遊び場ブース

鹿沼市社会福祉協議会主催の「こどもの遊び場＆食品配布会」に出展しております。赤い羽根共同募金活用事業の一環として、地域の子どもや子育て世帯に向け、段ボールカー工作などを通じた交流・支援の場を提供しております。



職業体験

高校生インターンシップ

学生の職場見学やインターンシップを積極的に受け入れております。クリーン服を着用した生産設備の見学や、調合作業などの体験機会を提供しております。今後も地域や学生との交流を深め、開かれた企業づくりに取り組んでまいります。

© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

03　2027年3月期 業績予想修正（2026年11月13日リリース）

（百万円）	リリース日	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
期初予想（A）	2026年5月14日	13,000	900	900	700
修正予想①（B）	2026年8月7日	13,000	1,200	1,200	900
修正予想②（C）	2026年11月13日	14,000	1,700	1,600	1,300
2026年3月期実績		12,059	579	613	505
増減額（C-B）		+1,000	+500	+400	+400
増減率		+7.7%	+41.7%	+33.3%	+44.4%

※増減算出後、百万円未満切捨て

【コメント】

2027年3月期第2四半期累計期間では、世界的なAI需要の拡大により、ハイパースケールデータセンターの増設とデータ通信量の爆発的な増加が続いています。これに伴い、高速ネットワークに不可欠な光ファイバー、データ保存用の大容量HDD、及びAIサーバー向け半導体市場の成長が当初予測を大幅に上回っています。こうした関連市場全体の力強い需要増と事業環境の好転を要因として、通期の売上高の業績見通しを修正するとともに、これら先端デバイス関連製品は相対的に利益率が高く、営業利益、経常利益、及び親会社株主に帰属する当期純利益が当初予測を上回る推移となりました。以上の理由により、2027年3月期通期の連結業績予想は上記のとおり上方修正することといたしました。

© 2026 Mipox Corporation

03　セグメント別 売上見通し：製品事業

中東情勢に伴うエネルギー・物流コストの高止まりや為替変動など、外部環境の先行き不透明感は継続しております。当社は継続的な価格転嫁とさらなる原価低減・固定費抑制を進めて収益耐性を強化するとともに、生成AI関連や次世代パワーデバイス等の堅調な需要を確実にとらえ、収益性の維持・向上に努めてまいります。

先端デバイス関連



- 生成AI関連投資の拡大を背景に、光ネットワーク向け需要は引き続き堅調に推移しています。北米をはじめとする受注も順調に増加傾向を継続しております。為替変動（円高）による影響を微小にとどめ、受注量自体は堅調を維持しており、今後も旺盛な需要に対応する供給力の確保を進め、さらなる成長を図ってまいります。
- 生成AIの普及に伴うデータセンター向け需要の拡大により、HDDむけ製品は上期も好調な推移を継続しており、中長期的な需要増を見込んでおります。こうした追い風の中、今期のメイン開発品が正式採用となり、下期からの量産開始を予定しております。また、HAMRをはじめとする次世代技術への導入に向けたサンプル評価も精力的に継続しており、最先端ニーズに応えるソリューション提供を通じて収益基盤のさらなる拡大を図ってまいります。
- 生成AI向け需要の牽引が続く中、プローブカードクリーニングシートは、GPU向け製品が引き続き堅調に推移しております。今後の拡大余地が大きいHBM向け製品は、主要メーカーでの採択に向け、営業活動を一層強化しております。また半導体むけ装置事業は、期首に計画していた装置が想定通りに検収したほか、残る案件も当期内の検収完了に向けて進展しております。今後も確実な需要取り込みを通じ、さらなる事業拡大を目指してまいります。

産業分野・電子部品関連



- 中東情勢に伴うコスト高など外部環境の不透明感は継続する見通しですが、適正価格の維持及び継続的な価格転嫁と、さらなる原価低減を強力に推進してまいります。変動要因に左右されない強固な収益耐性の構築を目指し、グローバルポートフォリオの最適化を進めてまいります。
- 国内市場におきましては、自動車業界をはじめとする主要用途での需要を確実に捉えるとともに、地域密着型営業による新規開拓を加速させてまいります。一方で、売上規模に対する利益率の向上が今後の重点課題であり、配送費や固定費等のコスト抑制を進め、売上増を確実な利益へと結びつける体制の確立を図ってまいります。
- 営業プロセスの効率化におきましては、ECサイトの活用拡大や新ツールの導入を推進して内勤業務を効率化し、訪問営業活動の量を一層引き上げてまいります。デジタル施策と対面営業を最適に融合させ、再現性の高い営業モデルの構築と収益性の向上に努めてまいります。

© 2026 Mipox Corporation

03　セグメント別 売上見通し：ソリューション事業

塗布・スリット関連



- 7月より実施した組織体制の再編及び集約により、第2四半期において製造原価の抑制を進めるとともに、機動力向上に伴う業務スピードの加速など、収益体質の改善に向けた基盤づくりに着手しております。今後も変化に柔軟対応できる持続可能な事業基盤の強化を推進してまいります。
- 足元の案件動向においては、試作件数が高い水準を維持して推移しており、下期以降も継続する見通しです。特に鹿沼事業所での量産稼働を見据えた案件が微増傾向にあり、小規模ながら立ち上げ直前の有望案件も芽生え始めております。
- 今後は顧客の開発ニーズに迅速かつ確実に応える体制を維持しつつ、これら手応えのある試作案件の早期量産移行を最重要課題として取り組んでまいります。試作から量産への確実なステップアップを果たし、高い生産性と安定的な収益基盤の確立を目指してまいります。

研磨・接合関連



- 新規稼働を開始したCMP案件の本格展開により売上が拡大傾向にあるほか、国内外からの需要取り込みが進んでおります。今後も試作案件の継続的な対応を通じて顧客基盤を固め、試作から量産案件への確実な獲得のため、一層の収益寄与を目指してまいります。
- 次世代パワーデバイス市場においては、GaN基板の多サイズ対応や12インチSiC基板をはじめとする大口径化・高難度加工ニーズに対して引き合いが急増しております。高速・高品質・低コストを実現する自社製スラリーを積極的に活用することで、優れた仕上げ面品質と採算性の改善を図り、最先端領域でのさらなるシェア拡大を推進してまいります。
- 体制強化を行ったアライメント接合をはじめとする接合技術と、従来の研磨加工やCMP・洗浄等の周辺プロセスを組み合わせた一括受託提案（ファウンドリーサービス）を強力に推進いたします。製造プロセス全体をカバーする独自の提案体制を深化させ、プロセス移管等のニーズにも対応することで、顧客の開発スピード向上に寄与するとともに、高付加価値案件の獲得による他社との明確な差別化を進めてまいります。

© 2026 Mipox Corporation

03　株主還元

当社は将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対しては安定配当を目指しつつ、業績等を勘案して、適正な利益還元に努めております。

配当

2027年3月期は配当については、通期業績の確定を受けての判断になりますが、期末配当15円を予定しております。

	年間配当
2025年3月期	10円
2026年3月期	10円
2027年3月期	15円（予想）

© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

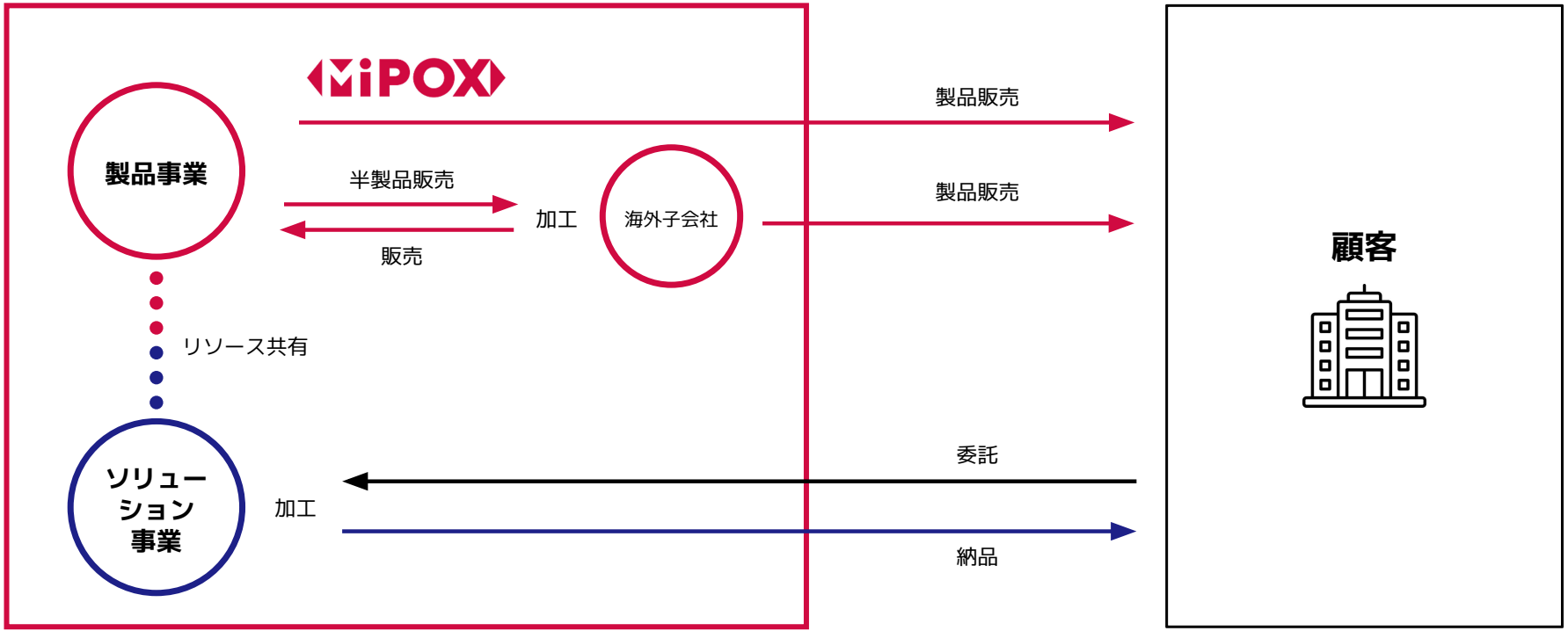
05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

04　事業系統図

海外工場での加工を経ることにより、日本のみに工場が存在するよりも様々な製品を効率よく製造しております。海外向けに販売も行っております。顧客からの委託を受けて加工も行っており、自社製品のみならず顧客の要望に合わせたサービス・製品も提供しております。



製品事業

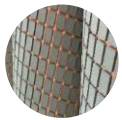
研磨材の開発・製造・販売を行っております。
超精密研磨から一般研磨まで、幅広いニーズに対応する製品を展開しており、装置や反射材なども含め、世界中の多様な用途に向けて提供しています。


研磨フィルム


液体研磨剤


研磨関連製品


研磨布紙製品


研磨砥石製品


研磨周辺機器


検査装置


再帰性反射材
（Ref Lite）


ヤスリ製品


IH粉体塗装

ソリューション事業

【研磨・接合関連】
半導体ウェーハをはじめとする材料を顧客より預かり、当社が保有する設備（研磨装置、洗浄機、検査装置）と独自の研磨材を用いて、要望に沿った研磨加工を提供しております。

【塗布・スリット関連】
顧客の基材（フィルム等）や塗料材を預かり、当社が保有する設備（調合、コーティング、スリット）を用いてフィルム化、裁断を行っております。


塗布製品


研磨加工


スリット加工

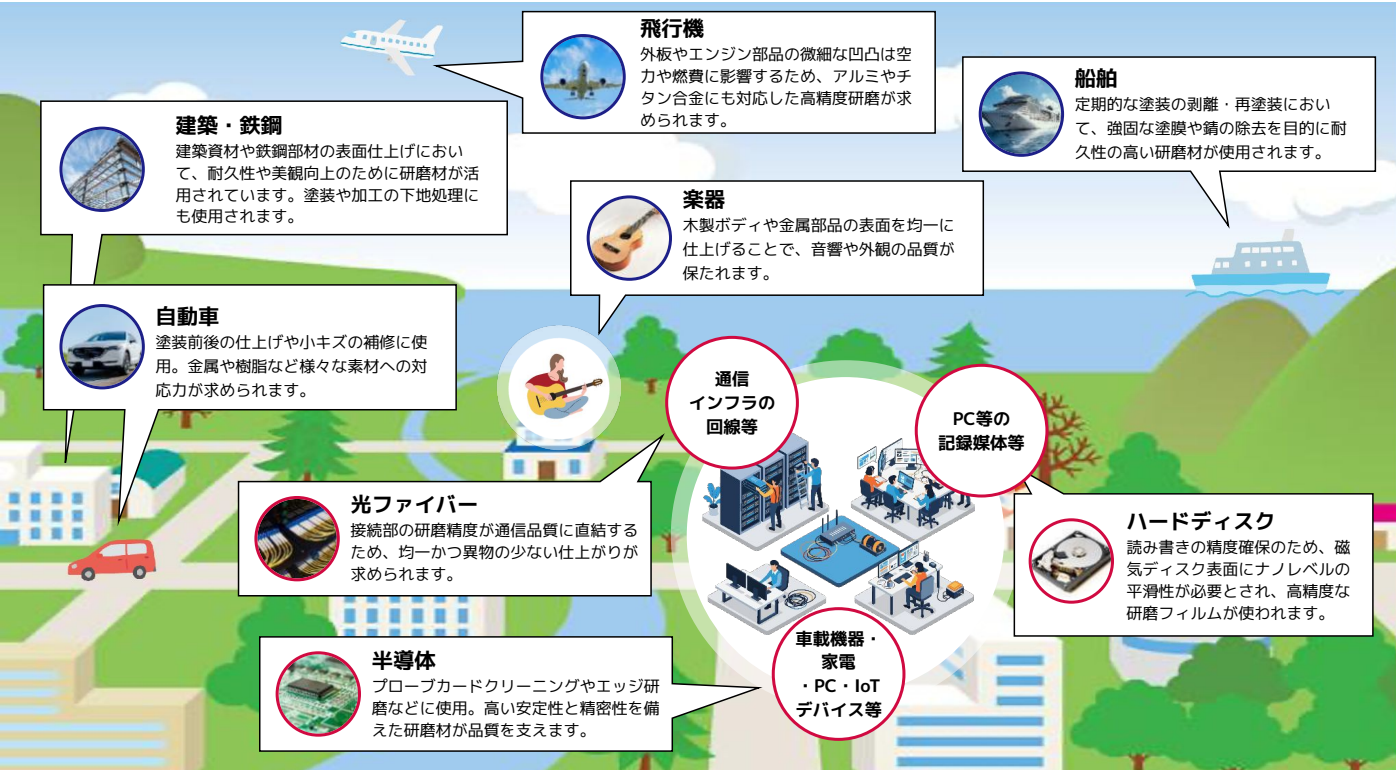

常温接合加工


検査

© 2026 Mipox Corporation

世界を磨き上げる。

世界中の産業・暮らしの中で求められる精度と品質。マイポックスは“研磨”の力で、それを静かに支えています。
半導体、光ファイバー、自動車、楽器など、あらゆる分野で当社の技術が、世界のスタンダードを磨き上げています。



当社が販売する研磨関連製品例



先端デバイス分野（研磨材）

ハードディスクや光ファイバー、半導体といった高精度な研磨が求められる先端デバイス分野向けに使用



産業分野・電子部品（研磨材）

航空機・船舶・自動車のボディ、楽器や建築関連の木工部品などに使用



研磨・観察装置

（左）エッジ研磨装置
（右）結晶転位高感度可視化装置 XS-1 Sirius

© 2026 Mipox Corporation

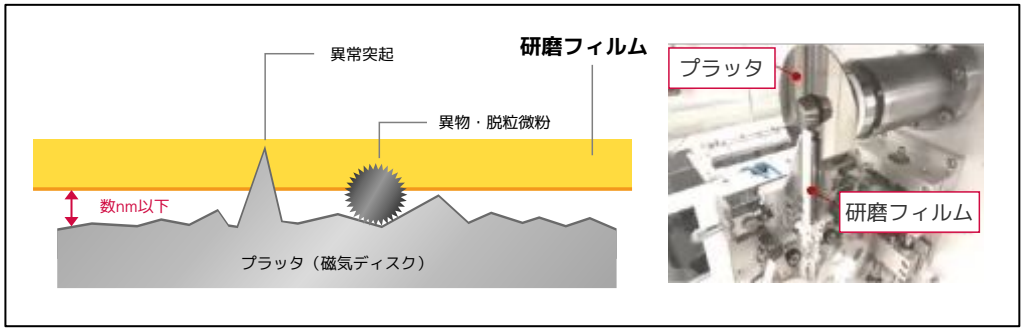
04　製品事業 先端デバイス分野 -HDD関連における当社製品の使用使途-

ハードディスクドライブ（HDD）内部のプラッタと呼ばれる磁気ディスクの表面研磨に当社製品を使用。ヘッド部に接触しないよう、1000分の1μ程度の突起や異物を除去します。各ハードディスクメーカーの仕様に応じたカスタマイズ製品を製造・供給しています。



ハードディスクドライブ（HDD）の研磨

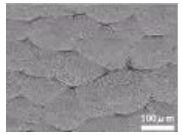
当社の研磨フィルムは、独自のバインディング技術とスリット技術により、研磨フィルムから砥粒や異物がディスク上に残らないよう設計されています。この高度な技術は非常に高い難易度を誇り、他社が模倣することが難しい当社の競争力の源です。



マイポックスの強み

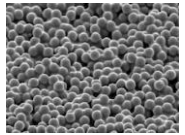
Strength
01　カスタマイズ可能

「塗る」技術の活用により、研磨層表面の形や大きさ、溝の深さ・粗さ等、各社に合わせた研磨フィルムを提案可能です。



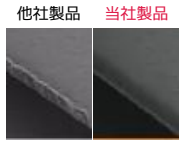
Strength
02　球状で傷をつけない

「塗る」技術の活用により、フィルムに球状の研磨材を均一に塗布。表面突起がないため、ディスクに傷をつけずに異物の除去が可能です。



Strength
03　端面まで高精度

「切る」技術の活用により、研磨フィルムの高精度な端面を実現。研磨時の傷の軽減など、品質向上に寄与しています。



© 2026 Mipox Corporation

04　製品事業 先端デバイス分野 -光ファイバー関連における当社製品の使用使途-

ガラス製のファイバー線と、それを保持するフェルール（酸化ジルコニウム製）を研磨することで、接触面を滑らかにし、光信号の損失を最小限に抑えることができます。これにより、通信の質が向上します。先端に付着した樹脂の除去から、鏡面化までを当社の製品で行います。

単芯タイプ　光ファイバーの研磨工程例

1本の光ファイバー線で構成。安価で長距離通信が可能。
一般消費者向けネット通信（テレコム）等に使用される。





STEP1　樹脂取り
使用製品：研磨フィルム



STEP2　粗研磨
使用製品：ダイヤモンドフィルム



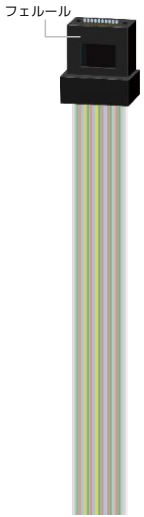
STEP3　中研磨
使用製品：ダイヤモンドフィルム



STEP4　仕上げ研磨
使用製品：Ultimas-PRO

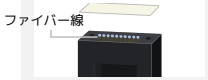
多芯タイプ　光ファイバーの研磨工程例

12～24本の光ファイバー線で構成。高価で付加価値が高い。
短距離通信限定＋大容量通信が可能でデータセンター等に使用される。

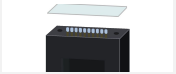




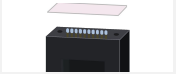
STEP1　樹脂取り
使用製品：研磨フィルム



STEP2　平面出し研磨
使用製品：研磨フィルム



STEP3　突き出し研磨
使用製品：植毛研磨フィルム



STEP4　仕上げ研磨
使用製品：植毛研磨フィルム

マイポックスの強み

Strength
01　環境負荷を低減
廃液を排出するスラリーに代わり植毛フィルムを使用することで、廃液問題の解消と環境負荷の低減を実現。環境基準が厳格な国々において、当社の製品は優位性を発揮します。

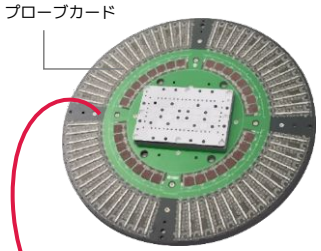
Strength
02　研磨材メーカーの製品力
研磨材メーカーとして、基材・砥粒・バインダーの多様な組み合わせにより、最適な製品を提供可能です。

Strength
03　研磨ニーズへの対応力
精密業界で培った長年のノウハウを活かし、研磨条件の最適化を提案し、様々な要求に柔軟に対応します。

© 2026 Mipox Corporation

04　製品事業 先端デバイス分野 -半導体関連における当社製品の使用使途-

半導体製造工程の中の、主に前工程であるウェーハ検査工程で使用される検査用器具「プローブカード」のクリーニングシートを提供。
多くの半導体関連メーカーへの提供実績があり、幅広い製品ラインナップで、あらゆるタイプの針先クリーニングに対応いたします。



ウェーハ検査用「プローブカード」の針先研磨

「プローブカード」とは、半導体のウェーハ検査工程で使用される検査用器具です。プローブ針からウェーハに電気を流し、正常に動作するか検査を行います。このプローブ針の汚れのクリーニング及び先端形状の保持に、当社のクリーニングシートが使用されております。



マイポックスの強み

Strength
01　針を摩耗せず汚れを除去

当社のクリーニングシートは針を摩耗せずに汚れの除去が可能です。高価なプローブカードの寿命を延ばすことに寄与します。



Strength
02　豊富な製品ラインナップ

プローブ針には丸・フラット・クラウン等、様々な形状があり、それぞれの形状に合わせたクリーニング製品を提供可能です。



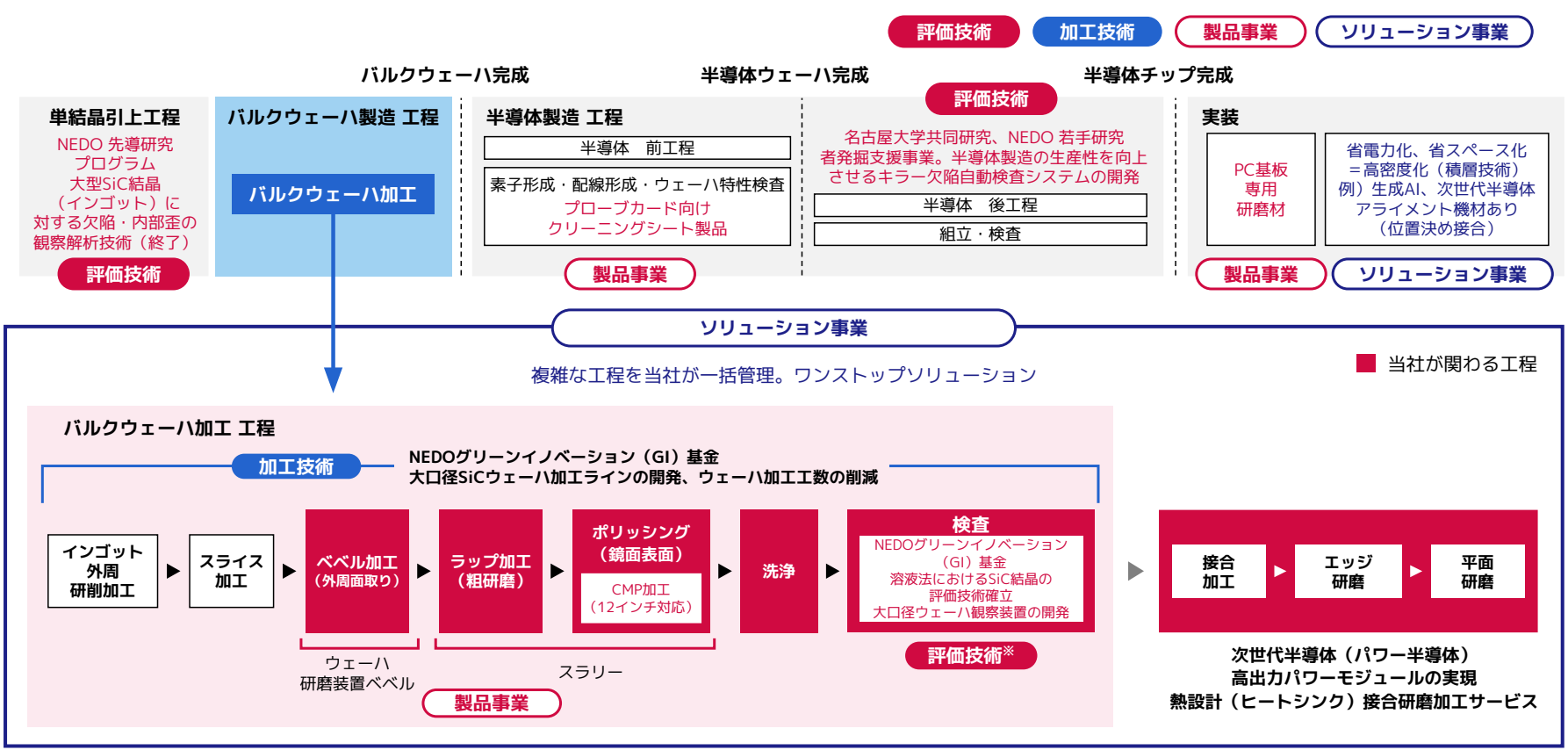
Strength
03　様々なテスト環境に対応

低温から高温まで、様々なテスト環境に対応した製品を取り揃えております。



© 2026 Mipox Corporation

04　半導体サプライチェーンにおける当社の技術と事業区分

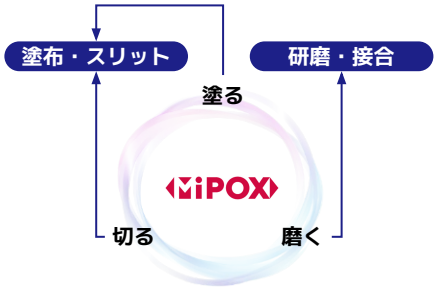


※NEDOグリーンイノベーション基金での支援事業は社会実装までは利益を上げることが出来ず、収益化は社会実装後になります。

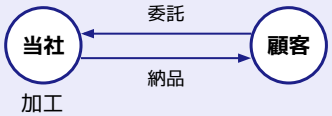
© 2026 Mipox Corporation

04　事業内容（ソリューション事業）

ソリューション事業では「塗る」と「切る」の技術を主とした塗布・スリット関連サービスと、「磨く」技術を主とした研磨・接合関連サービスを提供しています。



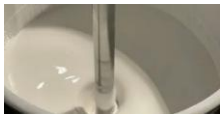
サービスの流れ



塗布・スリット関連の製造工程（塗る・切る）

各工程は個別でも一気通貫でも対応可

調合
塗料材の配合、ミキシング、分散



コーティング
高精度の厚み制御とクリーンな環境での塗布



スリット
塗布されたフィルムを切断



検査
塗布面、切断面を各種設備で検査



機能性フィルム製造実績（塗る・切る）	光学用粘着フィルム / 光制御フィルム /ディスプレイ向けフィルム / 半導体向けフィルム / 導電性フィルム / 化粧シート / 加飾・転写フィルム / 表示デバイス　他

研磨・接合関連（磨く）

平面研磨（CMP）



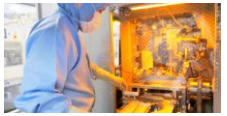
エッジ（ノッチ）研磨加工



精密洗浄



常温接合



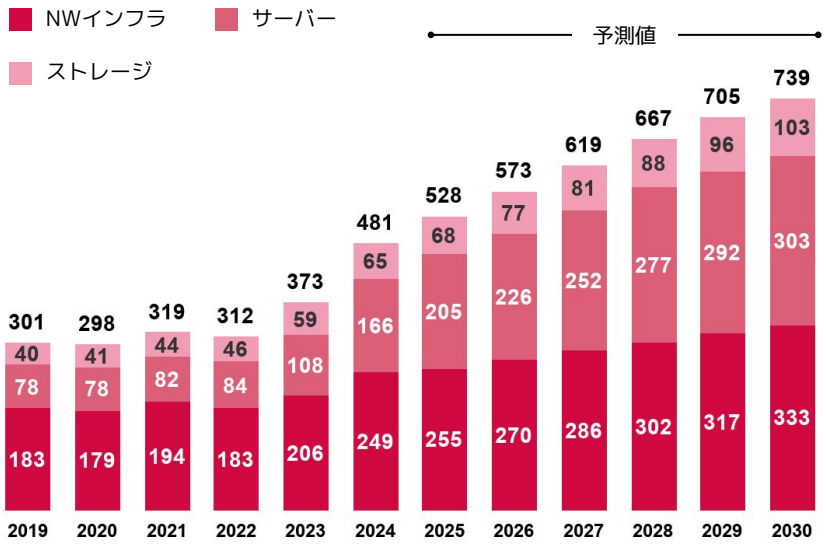
多様材料への加工実績（磨く）	半導体ウェーハ素材 （シリコン / 化合物半導体〔例：GaN, SiC〕 / ファインセラミックス / 酸化物材料 / ダイヤモンド / 金属 / ガラス 等）、3Dプリント造形物　他

© 2026 Mipox Corporation

04　データセンターの市場規模

当社売上の約6割をデータセンター関連製品が構成し、急拡大する市場を追い風に持続的な成長を目指します。

世界のデータセンター市場規模（売上高）の推移及び予測（単位：十億ドル）



※総務省「令和8年版 情報通信白書」

当社がデータセンターと関与する分野

サーバーの基幹部品

サーバー内部ではHDDや半導体がデータ処理と蓄積の基盤として機能しています。



半導体



HDD

接続の要

サーバー間やネットワーク機器を繋ぐ光ファイバーは、高速・高信頼なデータ伝送を実現する上で必要不可欠な存在です。



光ファイバー

市場を牽引するネットワーク・インフラ

NWインフラはデータセンター市場において最大のシェアを誇り高速通信への需要が市場全体を押し上げています。

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

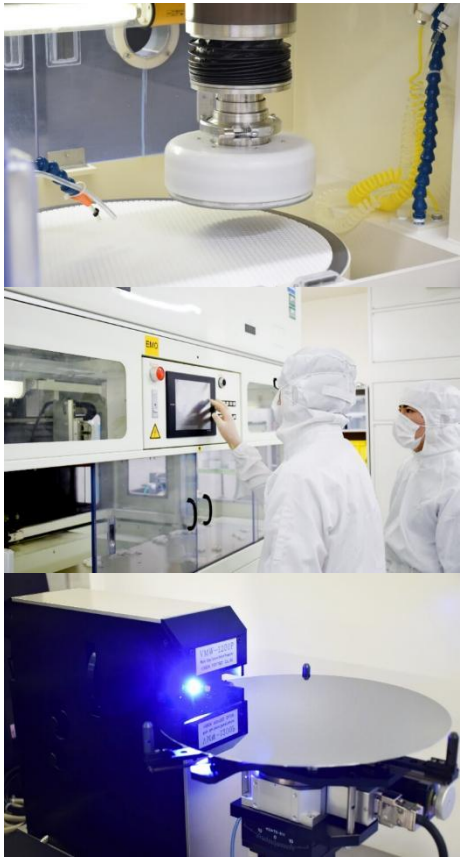
06 成長戦略

07 Appendix

1 事業間で発揮されるシナジー効果

2 顧客の要望に合わせた高品質な製品の提供

3 スマートファクトリー

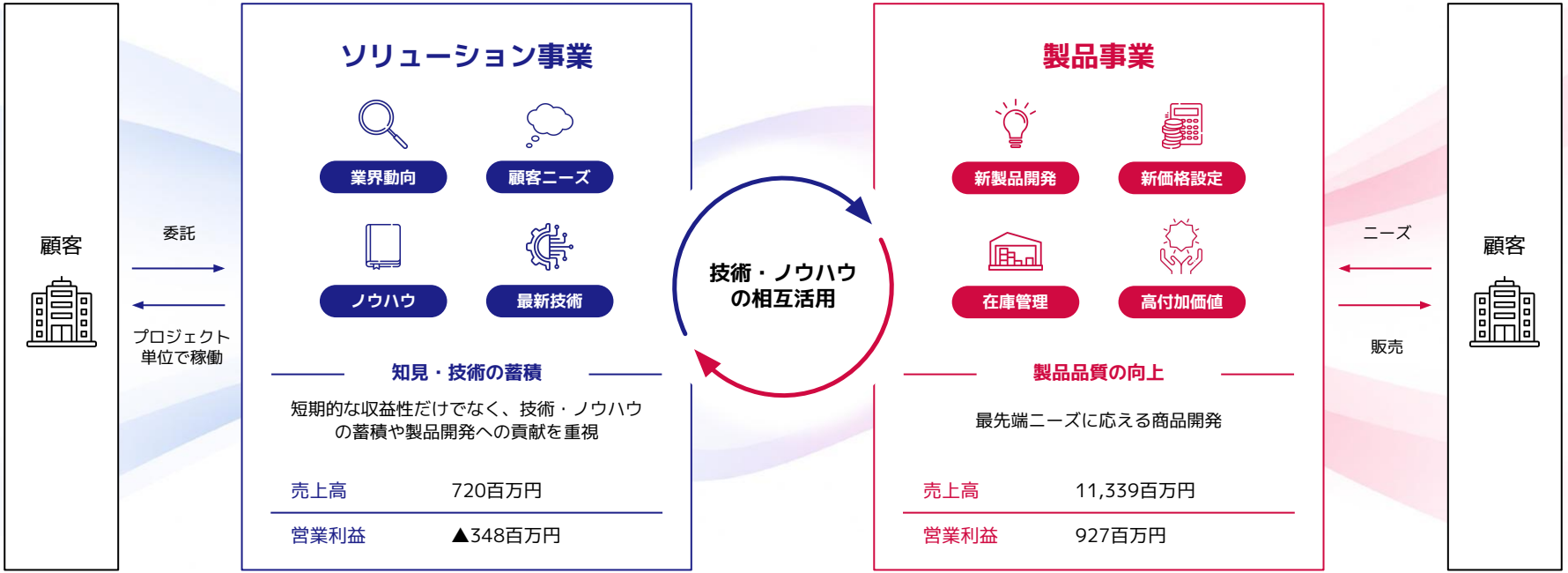


© 2026 Mipox Corporation

05　競争力の源泉①　事業間で発揮されるシナジー効果

ソリューション事業は、受託加工を通じた技術・ノウハウの蓄積と顧客ニーズの把握を担っております。
両事業の技術・ノウハウを相互に活用することで、製品の高付加価値化と中長期的な競争力強化を図ってまいります。

ソリューション事業を通じた技術蓄積が、製品事業の競争力を強化

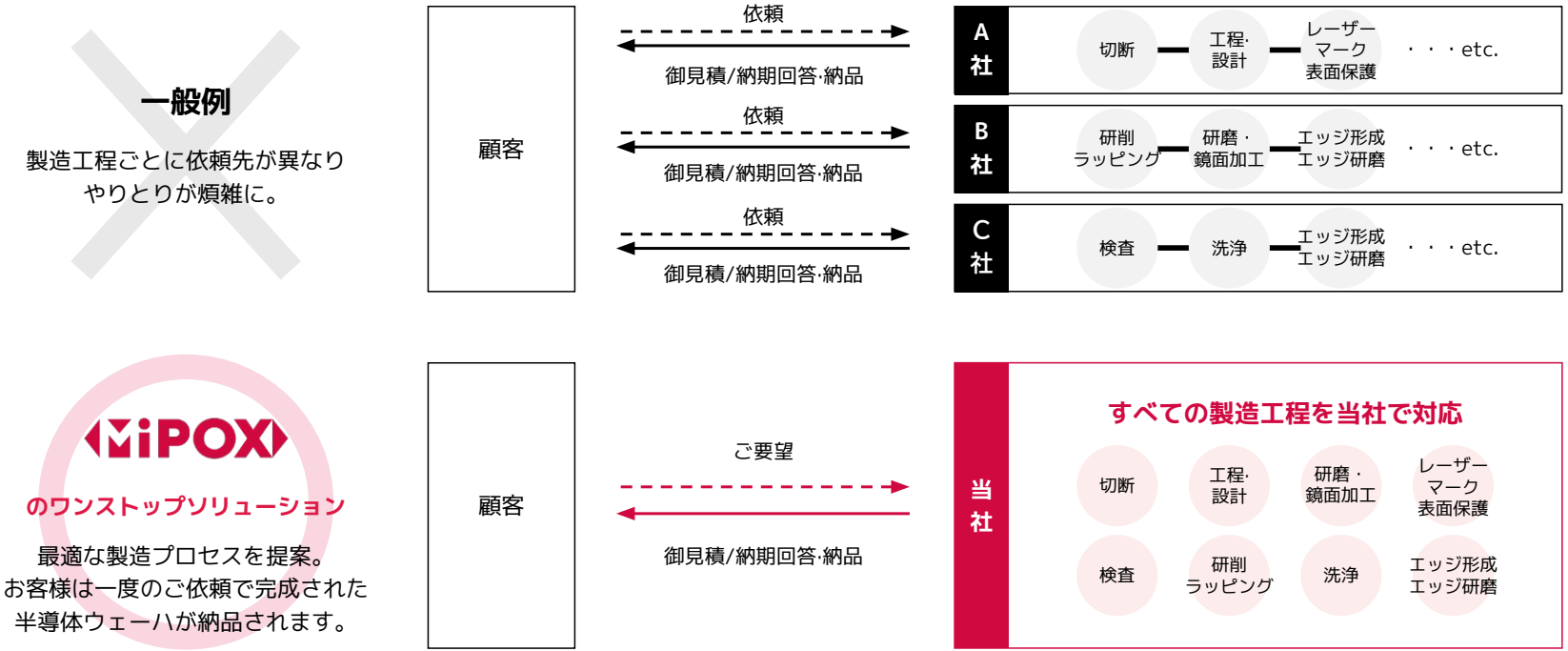


※セグメント別売上高及び営業利益は、2026/3期実績。

© 2026 Mipox Corporation

05　競争力の源泉②　顧客の要望に合わせた高品質な製品の提供

製品製造と受託加工ができるため、顧客の理想に合わせた製品の作成、きめ細やかなサービスの提供が可能です。
各製造工程において異なる取引先との煩雑なやりとりを当社がワンストップで提供しており、顧客の要望が1つの窓口で完結いたします。



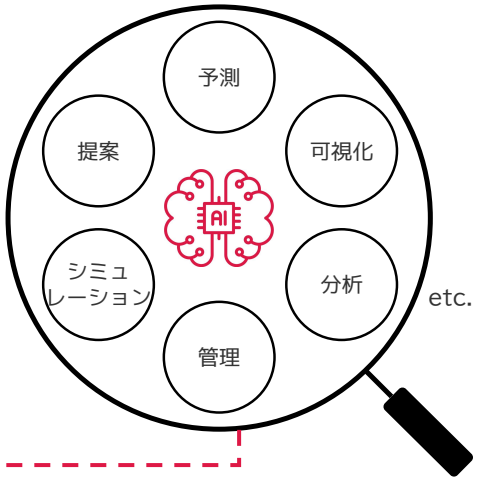
05　競争力の源泉③　スマートファクトリー

IoTとAIを活用し連携させることで、可視化しづらい部分の改善に役立つデータを収集しております。
工場のDX化により、さらなる効率化・高品質化を目指します。

IoT　**あらゆる機器を連携させ、様々なデータを収集・蓄積**



AI　**IoTで集めたデータを分析して課題を見える化**



業務プロセスの改革

品質・生産性の向上

© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

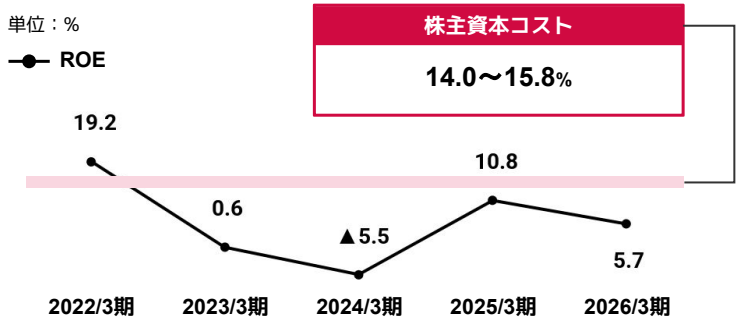
06　資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

当社の株主資本コストは、先端デバイス市況への高い感応度（高β）を背景として高位に推移しておりますが、高付加価値なサービスへのシフトや事業ポートフォリオの分散により、中長期的なコスト低減と収益性（ROE）の向上を同時に追求します。

ROEと株主資本コストの推移

株主資本コスト（β値）が高位に推移する要因

- 半導体市況の影響を受ける銘柄としての評価
- 特定のテーマ（人口ダイヤモンド等）による短期資金の流入



CAPM（資本資産価格モデル）による株主資本コストの算出

株主資本コスト ＝	リスクフリーレート	＋	株式β	×	市場リスクプレミアム
	3.1%		2.0~2.3		5.5%

※2026年10月末現在

ROEの分解

ROE ＝ 当期純利益率（当期純利益／売上高） × 総資産回転率（売上高／総資産） × 財務レバレッジ（総資産／自己資本）

当期純利益率　単位：%



総資産回転率　単位：回転



財務レバレッジ　単位：倍



06　IR活動の充実

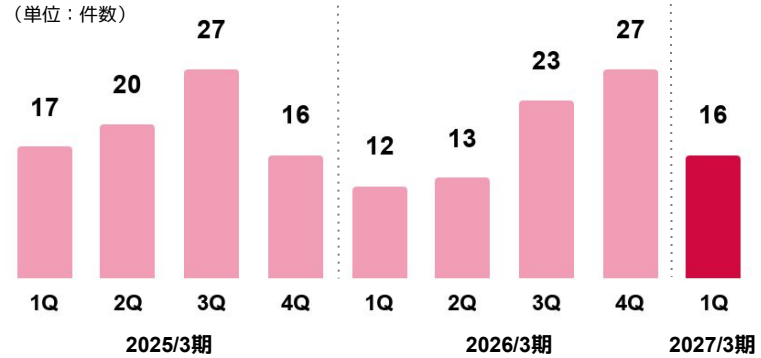
投資家との対話状況

対話テーマ　※詳細な質問内容・回答はp48参照

業績動向・半導体関連市場への影響などに関心が集中

ミーティング実績	16件	2027年3月期1Q　※沈黙期間を除く
		対前年同期比 +4件

投資家面談数（決算開示後ベース）



※本グラフの四半期は決算期間ではなく、決算開示後の面談実施期間を示しています。

情報開示の充実

決算説明会の動画配信
半期に1度、動画をアーカイブ配信。

英語対応
決算短信・決算説明資料の英語翻訳を実施し、グローバルな情報開示体制を強化。

よくある質問
https://www.mipox.co.jp/ir/faq/

IR発信の媒体

X	書き起こし記事	自社メディア
情報提供・開示情報のお知らせ	決算説明資料の書き起こし	自社技術などの発信

06　スポンサーシップ戦略と企業価値向上へのアプローチ

国内外の多様なパートナーシップを通じて、地域社会との連携や次世代の挑戦者支援により、中長期的な企業価値の最大化と当社の企業カルチャーの強化を両立します。



モータースポーツ

2026年4月始動　**VSR （Vincenzo Sospiri Racing）**

ランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジア等に参戦するレーシングチーム「VSR」の戦略的パートナー。

2024年4月締結　**根本 悠生 選手**

日本人初の欧州メーカー・ファクトリードライバーを目指して世界で奮闘するレーシングドライバー。

無形資産効果

グローバルで注目度の高い市場や地域社会、次世代の舞台との関わり（パートナーシップ）を通じて、ブランド力と市場プレゼンスを向上させ、中長期的な企業価値の最大化を図る。



プロスポーツ・地域貢献

2025年8月締結　**ヴァンフォーレ甲府（Jリーグ）**

同社の「北杜事業所」がある山梨県への地域貢献・恩返しとして、地元のプロサッカークラブを応援。

ESG/S指標への貢献

地方事業拠点におけるエンゲージメント向上、持続可能な地域社会づくり（S：Social）へのコミットメント、及び現地採用活動の推進。



アマチュアスポーツ・次世代アスリート

2025年12月締結　**足立 海世 選手**

世界ジュニアサーフィン選手権の日本代表にも選出されている若きトップサーファー。

2026年7月締結　**小野里 佳恋 選手**

世界を舞台に活躍が期待されるアルペンスキーヤー。

ブランド価値の創出

「世界の常識を変える」挑戦者の支援を通じて、マイポックスのイノベーティブな企業カルチャー、挑戦を賞賛するインナーブランディングを強化。

© 2026 Mipox Corporation

06　よくある質問

カテゴリ	質問	回答
業績動向及びコスト構造	足元で粗利益率・営業利益率が大幅に改善している主因は？	高粗利なプローブカード向けクリーニングシート等の消耗品比率向上（プロダクトミックス改善）に加え、価格改定の浸透や為替が寄与しました。また、賞与引当を今期より毎月均等計上へ変更（平準化）したことも四半期利益を押し上げています。
	今期（2027年3月期）の業績予想が保守的に見える背景は？	期初においてはマクロ環境の不透明感やリスクを考慮し堅めに見積もっておりました。しかしながら上期を通じてAI・データセンター向け需要（光ファイバー等）や半導体向け消耗品が想定を上回り、堅調に推移いたしました。利益率の改善や為替影響も加わり業績が大きく進捗したため、その上振れ分を反映して第2四半期においても通期予想を再度上方修正いたしました。
	原材料・エネルギー等のコスト高に対する価格転嫁の進捗と、採算改善の状況は？	進めてきた価格改定が、検収・出荷ベースで順調に浸透し利益率を押し上げています。また、不採算案件の見直しや高付加価値製品へのシフトも並行して進めており、コスト上昇影響を十分に吸収できる収益体質が整っております。
事業別詳細（産業デバイス製品）	HDD向け製品の今期見通しと中長期の成長要因は？	データセンター向け（ニアラインHDD）のプラッター（円盤）積層枚数増加が追い風です。シェア100%を維持しており、今期も堅調な成長を見込むとともに、新技術（HAMR等）導入も高機能化・単価上昇の追い風となります。
	光ファイバー向け製品の動向と今後のスタンスは？	データセンター向けの需要拡大や多芯（MT）化トレンドが力強く牽引しています。競合（中国勢等）の参入を警戒し安易な値上げは避けつつ、主要市場（北米・日本・アジア）での堅固なシェア維持を最優先としています。
	半導体関連製品の現状と戦略は？	競合参入によりレッドオーシャン化が進む一方、当社が強みを持つロジック向け半導体分野で好調を維持しています。要求スペックに対応した製品開発を進め、早期のシェア奪還・開拓を図ります。
サプライチェーン及びリスク管理	原材料費やエネルギーコスト上昇への対応は？	全体として不採算案件の整理や、順次価格改定を進めています。
将来の成長戦略及び投資	ソリューション事業の苦戦が続く中で継続する意義は？	単体の収支だけでなく、「最先端技術の習得」「自社製品需要変動時の工場稼働率維持」「顧客ニーズの早期把握」という3つの戦略的メリットがあるため、今後も重要な基盤として継続します。
	三光化学工業の買収（M&A）の狙いは？	2026年8月に三光化学工業の完全子会社化を完了いたしました。現在は当社グループへの統合プロセスを進めており、同社が誇る高度な電着植毛技術を取り込むことで、データセンター向け等の需要が急拡大する光ファイバー関連製品における「原料調達から製造までの一貫体制」を構築し、重要材料の安定供給と生産能力の増強を進めてまいります。

© 2026 Mipox Corporation

01

製品・受託事業領域の拡張（M&A戦略）

コア技術を基盤にM&Aや新技術導入を進め、塗装・研磨分野を中心に事業領域を拡大

02

カルチャー戦略

技術や設備では模倣できない「カルチャー」を競争優位の源泉とし、自律自走型の組織へ変革

03

産官学プロジェクトを通して「観る」技術の確立

NEDOプロジェクトを通じ、コア技術「観る（評価・検査）」を確立し、サービス型ビジネスへ転換

イノベーションに磨きをかける。

最先端を研ぎ澄ます。
次の100年を切り開き、
世界の常識を塗り替える。


塗る Coating


切る Slitting


磨く Polishing

※鹿沼事業所の量産体制構築は完了。

「塗る・切る・磨く」を極めた技術力　コア技術を組み合わせ、お客様の成功に貢献する付加価値の高い製品とサービスを提供

© 2026 Mipox Corporation

06　成長戦略①　製品・受託事業領域の拡張 -M＆Aによる事業拡張実績-

当社の3つの技術ドメインである「塗る・切る・磨く」をプラットフォームとして、M＆Aを重要な成長エンジンの一つとして活用し、事業拡張を進めております。

当社の技術　塗る　切る　磨く　＋　観る

	項目	内訳		関連企業の買収、事業及び知的財産の継承の実績	今後の方針
製品事業	産業分野・電子部品関連	自動車関連		2016年 Nikken 塗る 切る 磨く 2025年 株式会社ジェイテック 塗る 磨く	・隣接領域へ積極展開 ・事業承継ニーズを成長機会に転換
		住宅・建築・重工・産業資材			
		電子部品・一般デバイス			
		汎用資材・その他		2021年 ORIENT 磨く 2022年 MISUMI 塗る 磨く	
	先端デバイス関連	ハードディスク関連			・当社コア技術による市場深耕
		光ファイバー関連		2026年 SANKO 塗る 磨く	
		半導体関連			
ソリューション事業	塗布・スリット関連	Converting Solution（塗布・スリット関連）			・当社コア技術による市場深耕
	研磨・接合関連	Processing Solution（研磨・接合関連）	産業分野関連	2023年 マイポックス・メタルワークス（旧大久保鉄工所） 磨く	・自動化・無人化で収益力を向上
			先端デバイス関連		・当社コア技術による市場深耕
市場開発・技術開発				2015年 Ref Lite 塗る 2018年 有限会社ビジョンサイテック※ 観る 2023年 塗る ※現在は閉鎖	・買収技術と自社技術を掛け合わせ新技術を創出 ・新たな技術ドメイン「観る」の確立へ

© 2026 Mipox Corporation

06　成長戦略①　製品・ソリューション事業領域の拡張 -業界再編としてのM&A-

単なる事業拡大のためのM&Aではなく、後継者不足や人手不足という日本製造業の構造的課題を成長機会に転換する、「業界再編」としてのM&Aを推進します。

製造業を取り巻く社会課題



後継者不在率※1

42.4%



製造業の社長平均年齢※2

61.6歳

事業継承ニーズは今後も継続的に発生

当社の競争優位性　-再現性のあるPMIによる価値創出-



PMI標準化

統一プロセスにより
立ち上げ期間を短縮



デジタル基盤の導入

業務効率化・可視化
により生産性を向上



組織・カルチャー変革

働き方改革・環境整備により
人材定着・採用力を強化

構造課題を解決しながら企業価値を向上

標準化されたPMIプロセスによる企業再構築

1　課題企業の買収



後継者不在・人手不足
企業を受け入れ

2　初期統合



業務・組織の
可視化と課題抽出

3　組織環境の再構築



働き方・オフィス環境の
改善により組織力を強化

4　オペレーション改革



デジタル導入により
業務効率と生産性を改善

5　技術シナジーの創出



取得技術と既存技術を融合し
新製品・新領域を創出

企業再構築を通じて、収益成長と持続的な競争力を実現

※1：帝国データバンク「全国『後継者不在率』動向調査（2025 年）」　※2：帝国データバンク「全国『社長年齢』分析調査（2025 年）」

© 2026 Mipox Corporation

06　成長戦略①　製品・ソリューション事業領域の拡張　- IH(高周波誘導加熱)設備による新しい塗装工程ライン-

当社のコア技術の一つである「塗る」に関連する技術であるIH（高波誘導加熱）技術を利用し事業展開を図ります。鹿沼事業所に開設した実証実験ラボの積極的な活用に加えて、IH技術を活用した自社製品の開発に向けて設備の導入を進めています。

【実証実験ラボのIH粉体塗装システム】　**特許取得済（特許第7560971号）**



ラボで事前検証が可能に

ラボ見学・デモ確認
↓
シミュレーターによる解析
↓
試作コイルの検証
↓
データ分析
↓
コイル＋システムの製作
↓
納品

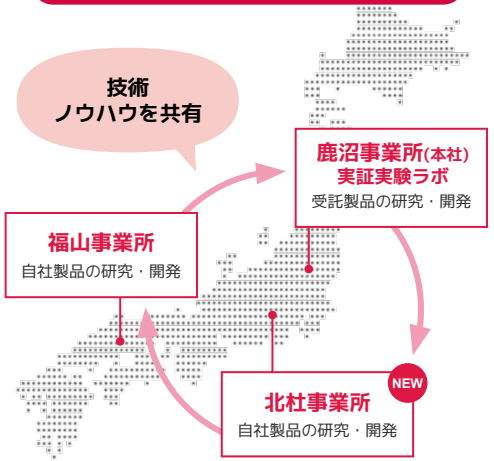
新技術に対する顧客の不安を払拭し、スムーズなシステム導入に寄与



実証実験ラボ見学の様子

2023年3月に譲り受けた株式会社スガ　コーディングスのIHを活用したコーティングラインの企画・設計・開発・販売を展開し、溶剤不使用のコーティング技術の導入支援を行っています。2023年10月に鹿沼事業所に開設した実証実験ラボを積極的に活用しながら、製造工程の中で最もエネルギーを要する設備であるガス熱風乾燥炉を、IHを利用した電気加熱方式であるIH設備に置き換えることによって省エネ、省スペースを実現できる塗装工程ラインをご提案しております。

IH粉体塗装技術の活用体制強化



福山事業所に加え、北杜事業所でもIH粉体塗装システムの導入を進め、実証実験ラボや各事業所で得られた技術・ノウハウを活用して自社製品の開発を進めてまいります。



IH粉体塗装技術で製造した研磨製品

© 2026 Mipox Corporation



技術や設備は模倣できても、カルチャー（文化）は模倣できない。

15年にわたるDXへの継続投資、リブランディング、M&A、
そして戦略的な知財管理を以て、管理型から自律自走型の経営を目指します。

リブランディング

100年企業の「脱皮」

01

物理的環境の刷新

M&A後まず、オフィスのリノベーションやカフェテリアの設置に着手。オープンレイアウトが心理的な壁を取り払い、情報流動性と透明性を高める。

ロゴ刷新の意思

100周年を機に刷新。製造業の慣習や固定観念から意図的にはみ出す「スジの通ったはみ出し者」として、業界の常識を塗り替える決意を示す。

デジタル・ファースト

文化と仕組みの双方向インストール

02

共通言語化

SalesforceやGoogle Workspaceを全社員の「共通言語」として導入。拠点や世代を超えた透明性の高いコミュニケーション基盤を構築。

情報の民主化と AIによる自律自走の最大化

現場も経営層も同じデータにアクセスできる環境を構築。生成AIと掛け合わせ、誰もが熟練の知恵を武器に戦える自律分散型組織を実現。

カルチャー・プラグイン

PMIの型でM&Aを高速化

03

文化の書き換え

リアルワークプレイスとデジタルワークプレイスをセットで刷新し、買収先の「古い慣習」を「マイポックス流」へ一気にアップデート。

救済型M&A

後継者不在やデジタル化に悩む企業に対し、「技術と雇用を守るプラットフォーム」としての安心感を提供。社会的価値と利益追求を両立。

© 2026 Mipox Corporation

06　成長戦略③　産官学プロジェクトを通して「観る」技術の確立　-「観る（解析・評価技術）」への取り組み-

産官学プロジェクトへの参画を通じ、半導体製造の生産性向上に資する技術開発を進めるとともに、将来の製品化を見据えた知的財産・ノウハウの蓄積に注力しております。

進行中の取り組み

01　産官学プロジェクト：NEDO グリーンイノベーション（GI）基金事業

体制：オキサイド（幹事）、名古屋大学（宇治原教授 / UJクリスタル）、産総研、アイクリスタル 他

- 前年度は、2年間の委託事業を想定通りの成果で終了し助成期間へ移行。パイロットライン立ち上げ、工数削減、シミュレーション構築、検査装置の量産化検討を実施。
- 今期は、結晶転位高速検査装置「XS-1 Sirius」において、8インチウェーハ評価対応を開始。

加工技術（スライス/研磨）	**大口径SiCウェーハ加工ラインの開発** 8インチ対応SiCウェーハ加工、パイロットラインの構築	**ウェーハ加工工数の削減** 加工シミュレーションの検討と削減工程候補の抽出
評価技術	**溶液法におけるSiC結晶の評価技術確立** 溶液法SiCに適した光学系の最適化とそれに基づく装置設計	**大口径ウェーハ観察装置の開発** 8インチウェーハに対応した装置仕様の検討と設計

02　産学連携研究：名古屋大学と製品化に向けた研究開発

評価技術	**検査・評価技術の開発** 半導体製造の生産性を向上させるキラー欠陥自動検査システムの開発、結晶内部の転位欠陥の偏光観察による分類判別手法の確立

当社のコア技術

Technology + Estimation

NEW

切る　塗る　磨く　観る

技術ドメインである「塗る・切る・磨く」に「観る」を新たな領域として確立することで、技術基盤のさらなる高度化を目指す。

これまでの産官学実績

2024年度末 終了

NEDO官民による若手研究者発掘支援事業

名古屋大学（原田俊太准教授）

2022年度末 終了

NEDOマテリアル革新技術先導研究プログラム

電力中央研究所・名古屋大学（宇治原徹教授）・理化学研究所

※NEDOグリーンイノベーション基金での支援事業は社会実装までは利益を上げることが出来ず、収益化は社会実装後になります。

© 2026 Mipox Corporation

06　成長戦略③　産官学プロジェクトを通して「観る」技術の確立　-産官学プロジェクトへの参画（概要）-

カーボンニュートラルの実現に向けてエネルギー構造や産業構造の転換、大胆な投資によるイノベーションの創出が必要とされています。
これまでの社会の延長にない飛躍的な目標を達成するため創出された、グリーンイノベーション基金のプロジェクトに当社が参画しております。

【NEDO※1グリーンイノベーション基金】

- 日本政府が主導する「2050年カーボンニュートラル」宣言を達成するための基金
- 事業予算2兆円
- カーボンニュートラルに向けた研究開発、実証から社会実装に取り組む企業に最長10年間支援

NEDO対象
19
プロジェクト

▶

次世代デジタルインフラの構築

研究開発項目2

次世代パワー半導体に用いるウェーハ技術開発

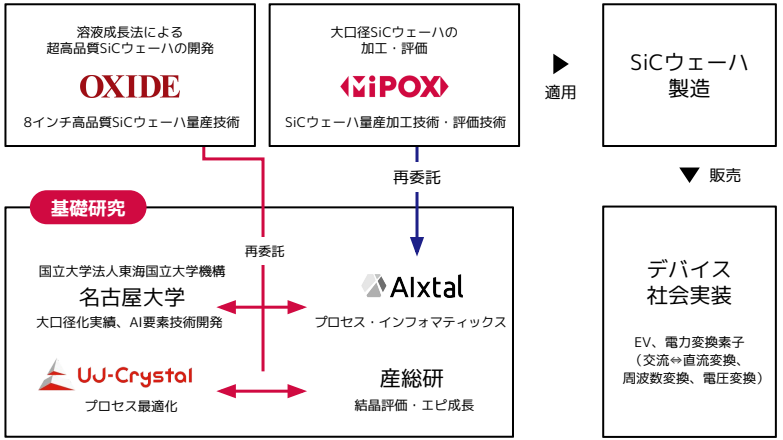
MiPOX　OXIDE　UJ-Crystal
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学　AIxtal　産総研

当社を含めた6社が共同受託
2022年度から2030年度まで9年間のプロジェクト

【プロジェクトの目的】

超高品質・8インチ・低コストSiCウェーハ開発・販売

【系統図】



※1：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

※NEDOグリーンイノベーション基金での支援事業は社会実装までは利益を上げることが出来ず、収益化は社会実装後になります。

© 2026 Mipox Corporation

Agenda

01 会社概要

02 2027年3月期 第2四半期実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

07　マネジメントメンバー

01



代表取締役社長　渡邉 淳 WATANABE Jun

日本とアメリカの大学で学んだ後、1994年当社へ入社。製造現場でキャリアをスタートし、生産技術、国内営業、海外営業を担当後マレーシア駐在員、米国子会社赴任を経験。その後半導体部門長、海外支援部門長に従事。2007年取締役、2008年に先代から引き継ぐ形で現職に就任。就任後は不採算事業撤退や拠点の統廃合を通して赤字からの脱却を行った。業績回復後は製造業として「技術・品質」に加え、デジタルを企業変革の柱と据えてIT推進をリード。

02



取締役　中川 健二 NAKAGAWA Kenji

全自動水洗い洗濯機や半導体CMP後洗浄装置の開発、ハードディスクメディアむけ研磨テープや光学検査装置の技術営業を経験。独立後は光学検査装置のマーケティングから技術、営業や貿易などに携わる。2002年に独立後、2016年当社技術本部長、2019年経営企画部長兼経営管理部長に就任。経営全般に関わりながら、社内組織体制の構築やレフライトのリブランディング活動に注力。2021年から新事業開発に携わり、GI基金の大口径SiCウェーハの加工開発を統括している。

03



取締役　上谷 宗久 UETANI Munehisa

2000年に当社入社。台湾支店長や海外子会社の代表取締役を経て、2012年取締役営業本部長に就任。製造拠点の運営、競合他社とのM&A、そして民事再生を経た企業の事業承継等を担当。2017年に退職し、ITベンチャーにおける取締役COOとしての経験をはじめ、エンジニアリング企業での事業開発責任者としての役職を経た後に、2022年4月に当社に復帰。外部活動としてthomas株式会社の社外取締役も務める。

04



社外取締役（独立役員）加藤 洋美 KATO Hiromi

2007年12月に弁護士登録をし、日比谷法律事務所に入所。以降、法律業務に従事し、2021年4月には同事務所の所長に就任。現在も所長として業務を遂行中。また、2021年4月からは小岩井農牧株式会社の監査役を務めており、2023年4月には株式会社小岩井ファームダイニングの監査役にも就任し、同様に現任している。

05



社外取締役（独立役員）宮崎 健輔 MIYAZAKI Kensuke

大学卒業後、外資系半導体製品を販売する専門商社に入社し、法人技術営業、全社プロジェクトのリーダー、海外研修、部門立ち上げなどを経験。その後、日本最大のMBAスクールを有する企業グループに転職し、経営大学院にてMBAを取得。法人営業部門のチームリーダー、コンサルタントを務めた。独立後は、経営コンサルタント、エグゼクティブコーチ、組織開発、企業研修などを手がけ、現在も事業・組織領域の両面において幅広く活動を続けている。経営者へのコーチングも行っており、人的資本経営の専門家として、企業の成長支援に注力している。

© 2026 Mipox Corporation

07　スキルマトリックス

	経営全般	グローバル経営	ESG	DX戦略	研究・技術開発	M&A	マーケティング・営業	製造・生産技術	法務・リスクマネジメント	人材戦略
01  代表取締役社長 渡邉　淳	●	●	●	●		●		●		
02  取締役 中川 健二					●		●	●		
03  取締役 上谷 宗久		●		●		●	●			
04  社外取締役（独立役員） 加藤 洋美									●	
05  社外取締役（独立役員） 宮崎 健輔			●							●

© 2026 Mipox Corporation

07　人的資本充実への取り組み　エンゲージメント可視化と組織状態の把握

人的資本の充実に向けた取り組みの一環として、従業員のウェルビーイングに関する社内アンケートを実施

目的と位置づけ

- 社員のエンゲージメントや心理的状態を可視化し、離職・休職を未然に防ぐ
- 単なる「負担軽減」ではなく、納得感・共感度の向上を目指す

特徴と現状

- 予防的要素が強く、将来的な向上に重点
- 回答率は9割超と高水準 → 社員の関心度の高さを示す
- ウェルビーイングスコアは6.1/10点（2026年3月末現在）

今後の方針

- 現状は、「数値の意味づけ」と「目標の明確化」に向けた段階
- 現時点では事実ベースで開示し、改善策を検討中
- 将来的に、定点観測と改善サイクルの確立を目指す



アンケート回答率 99%以上

07　AI時代における自律的な意思決定を支える組織カルチャー

数か月で常識が塗り変わる現代において 、当社は共通の判断軸に基づく「自律型組織」を構築しています。
現場一人ひとりが即断即決できるカルチャーを競争優位性とし、圧倒的な対応力と実行スピードで市場をリードします。





コンパスの策定

- 行動指針を明文化し、全社員が共有する判断軸として活用
- 毎日の朝礼で確認・共有し環境変化を踏まえ、定期的なアップデートを実施

カルチャーを支える仕組み

- コミュニケーションツールを活用したオープンな情報共有と、判断プロセスの可視化
- 役職に依存しないフラットなコミュニケーション設計
- AIを現場の意思決定・業務改善に活用する運用
- 判断と対話が生まれやすいオフィス・働き方設計

自律的な意思決定

- 現場が自ら考え判断し、行動することを前提とした組織運営
- コンパスを共通言語とすることで、判断の方向性を揃えたまま意思決定を分散
- 経営は指示を出すのではなく、自律的な判断を支える環境整備に注力

© 2026 Mipox Corporation

07　人的資本①

当社では、次世代を担う人材の育成と長期的なキャリア形成を重視しています。そのため、以下のような多様な取り組みを行っています。

採用や育成に関する取り組み

【工場見学及びインターンシップ】

高校生を対象に工場見学やインターンシップを実施し、職業体験を通じて実際の業務を理解してもらう機会を提供しています。これにより、若い世代の興味を引き出し、将来の採用につなげています。

【OJT教育と研修制度】

当社の教育プログラムはOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）を中心に構成されています。新入社員は現場での実務経験を積むことで、実践的なスキルを身につけます。また、各部署やキャリアパスに応じてフォローアップ研修を行い、継続的な成長を支援しています。具体的な研修内容としては、入社時研修、拠点間研修、ビジネススキル研修（外部研修）などがあります。

【新卒定着率】

当社の新卒定着率※は64.7%に留まっており、現在、採用・配属プロセスの最適化に着手しております。具体的には、学生との接点強化に加え、入社後の実務体験を通じた適性把握と相互理解の深化に注力しています。これらによりミスマッチを抑制し、長期的に活躍できる支援体制の構築を推進してまいります。

【まなび支援制度】

・まなび × 応援（若手のリスキリング）
働きながら大学で学びたい若手社員を支援します。専攻は自由で、個人の意欲的な挑戦を後押しします。

・まなび × ミッション（次世代リーダー育成）
選抜メンバーを対象に、国内外の大学院やMBA取得などの高度教育を支援します。将来の経営を担うための専門性や語学力を習得します。



※過去5年採用新卒定着率。国内データに基づく。
※2026年3月末現在

07　人的資本②

当社では、従業員一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、柔軟で多様な働き方を推進しています。



平均残業時間
11～15 時間/月

男性育休取得率 62.5%

働き方に関する取り組み

【在宅勤務とスーパーフレックス制度】

働く場所や時間に柔軟性を持たせることで、従業員が自身のライフスタイルに合わせた働き方を選択できるようにしています。

【ハレアワー制度】

社員がリフレッシュし、仲間との絆を深めるために、時間単位で取得できる休暇制度です。具体的な活動例としては、部や課の全員でプロスポーツの応援に行く、花見や暑気払いを行う、打ち合わせ後に全員でボーリングに行くなどが含まれます。この制度は社員全員がリフレッシュし、良好な人間関係を築くことを目的としています。

【地域貢献活動】

小中学生を対象とした「研磨加工教室」の開催や定期的な公園美化活動の実施等を通して、地域社会への貢献を大切にしています。

【社内行事】

当社が大切にしている『みんな仲良く』の精神を実現するため、また「働き方改革」の一環として、社内行事を積極的に実施しています。これにより、社員間のコミュニケーションが深まり、より良いチームワークが築かれています。

【残業時間の管理】

当社の従業員の平均残業時間は月11～15時間※を推移しています。具体的な目標数値は持っていませんが、バランスの取れた働き方を重視しています。

【有給休暇取得率】

有給取得率の目標を80%と設定しており、現状では93.3%※です。これにより、従業員のワークライフバランス向上を図っています。また、男性育休取得率は62.5%※となっております。

※2026年3月末現在。国内データに基づく。

© 2026 Mipox Corporation

07　人的資本③

当社では、従業員のエンゲージメントを高め、働きがいのある職場環境を実現するために、以下の取り組みを行っています。

エンゲージメントに関する取り組み

【COMPASSの作成】

当社の指針となる「COMPASS」を作成し、全従業員に共有しています。この指針は、企業理念やビジョン、行動指針を明確にし、従業員が日々の業務において共通の目標と価値観を持つための基盤となっています。

【定期的なアンケートの実施】

従業員の声を直接反映させるために、定期的に従業員サーベイ（ウェルビーングサーベイ）を実施しています。このアンケートでは、従業員の満足度や不満点を収集し、それに基づいた具体的な対策を講じています。従業員の意見を積極的に取り入れることで、働きやすい環境の整備とエンゲージメント向上を図っています。

これらの取り組みの結果として、当社の退職率は9.8%※（グローバル）となっており、従業員が長く安心して働ける環境が整っています。これからも、従業員の声を大切にし、エンゲージメント向上に努めてまいります。



※2026年3月末現在

© 2026 Mipox Corporation

07　人的資本④

当社では、安全と適正を最優先に考え、職場環境の最適化に向けた取り組みを積極的に行っています。



健康・安全に関する取り組み

【5S活動】

5つの要素からなる5S活動を推進しています。これにより、職場の安全性を向上させ、
効率的な作業環境を整えています。

【5Sとは】

整理	Seiri	：いらないものを捨てる
整頓	Seiton	：決められたものを決められた場所に置き、取り出せる状態にしておく
清掃	Seisou	：常に掃除する
清潔	Seiketsu	：3S（整理、整頓、清掃）を維持し、職場の衛生を保つ
躾	Shitsuke	：決められたルールを守る、手順を正しく守る、習慣をつける

当社は生産性向上のための業務効率化を行っています。安全性、快適性の高い工場を目指し、
決められたルールを当たり前に守る風土を作り、会社の信用度、会社の利益に繋げます。
安全で安心して働ける職場環境の維持と向上に努めています。

※2026年3月末現在

© 2026 Mipox Corporation

07　人的資本⑤

当社では、多様性を尊重し、誰もが活躍できる職場環境の実現に向けた取り組みを進めています。

ダイバーシティに関する取り組み

【男女別従業員比率】

従業員比率は男性：女性が3.7：1※（グローバル）となっています。これに対して、女性の採用や昇進の機会を増やす取り組みを進めています。

【男女別賃金格差】

男女間の賃金格差は61.9%※（国内のみ）です。なお、属性（勤続年数、役職等）が同じ男女労働者間での賃金の差異はありません。

【女性管理職比率】

女性管理職比率は11.2%※（グローバル）です。女性リーダーの育成プログラムやメンター制度を導入し、女性が管理職として活躍できる環境作りを推進しています。

【障がい者雇用比率】

障がい者雇用比率は2.3%※（国内のみ）であり、目標の2.7%に向けて取り組んでいます。職場のバリアフリー化や障がい者向けの職務設計を進めることで、働きやすい環境を整備しています。



※2026年3月末現在

© 2026 Mipox Corporation

07　ESG・SDGs への取り組み

Environment



- 太陽光パネル導入の推進
- IH粉体塗装システム
- RTOの利用によるVOC削減
- LNGボイラの導入
- リサイクル素材を使用した製品の開発
- グリーンイノベーションへの取り組み
- ISO14001 にもとづいた環境負荷軽減

Social



- Eラーニングによる社内教育の充実
- スーパーフレックスタイムの導入
- 人事評価システムの構築
- 資格取得の促進及び取得後の手当の充実
- 労働災害事故の防止
- 若手の定着率の向上
- 女性従業員比率の向上

Governance



- 透明性のある情報開示
- 内部通報窓口を外部企業に委託
- 全社員に対するコンプライアンス研修の実施
- グループ各社に対するガバナンスと
  モニタリング体制の強化

07　マイポックスグループ主要拠点



IRお問い合わせ

フェアディスクロージャーの観点から、公平な情報開示体制と株主様と投資家の皆様へのお問い合せ対応の維持を考慮し、
IRお問い合わせ窓口のお電話での対応をおこなっておりません。
HPのお問い合わせフォームをご利用ください。

お問い合わせはこちら

https://www.mipox.co.jp/inquiry.html